

受付
19.2.20
キャリアセンター

E



INDEX

- 会社概要 2
- トップメッセージ 5
- 信頼される企業体制 7
- お客様に安心と満足をお届けするために 11
- ハイライト 15
- 環境活動報告
 - 環境方針と環境負荷低減活動 19
 - 環境負荷低減への取り組み 20
 - 真庭トンボの森づくり活動 21
- 社会活動報告
 - 「WE LOVE トンボ」絵画コンクール 22
 - 11月29日 いい服の日 23
 - キラク介護川柳、キラクふれあいフォトコンテスト 24
 - オリジナルキャラクター大活躍 25
 - 工場見学・インターンシップ等による地域貢献 26
 - 日本唯一のユニフォーム研究開発センター・震災復興支援 27
 - 各事業所での活動 28
 - VICTORYスポーツ教室 29
 - スポーツ大会等の協賛支援 30
 - 公益財団法人八正会 31
- 健全な企業風土づくり 32
- ブランディング活動報告 37
- 沿革 38

会社概要

スクール事業 幼稚園から短大・専門学校までの学校制服

 幼稚園向け	 小学校向け	 中学校向け	 高校向け
			

スポーツ事業 幼稚園から高校までのスポーツウエア

 幼稚園向け	 小学校向け	 中学校向け	 高校向け
			

ヘルスケア事業 介護スタッフユニフォーム、被介護者向けウエア、医療白衣、検診受診者用ウエアなど

 介護施設向け	 介護施設向け	 病院向け
		

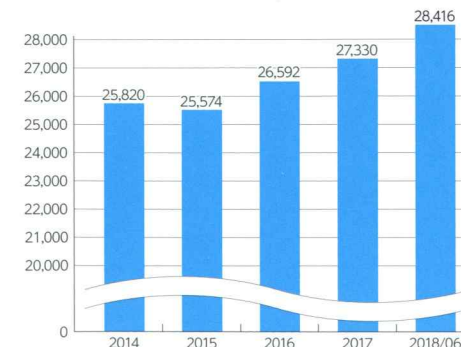
新規事業 ペット用品



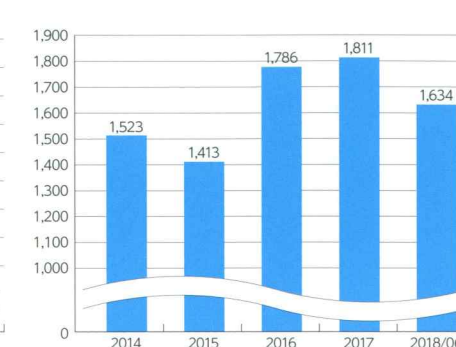
ペット向け



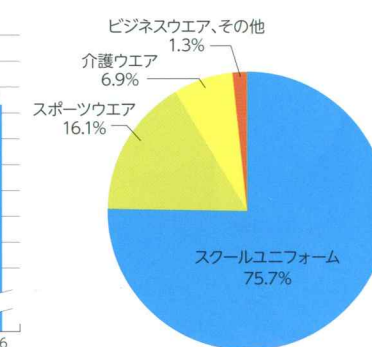
【連結売上高】(単位:百万円)



【連結経常利益】(単位:百万円)



【売上高構成比率】



社名 **株式会社トンボ**
 U R L <http://www.tombow.gr.jp>
 会社設立 大正13年5月10日(創業:明治9年)
 資本金 2億6187万円
 代表者 取締役社長 近藤 知之
 従業員数 1,505人(2018年6月末現在のグループ合計数)
 本店所在地 玉野本社工場 〒706-0224 岡山県玉野市八浜町大崎1212番地
 TEL.(0863)51-1515 FAX.(0863)51-2526
 事業所所在地 岡山本社 〒700-0985 岡山市北区厚生町二丁目2番9号
 TEL.(086)232-0311 FAX.(086)225-4094
 東京本社 〒111-0052 東京都台東区柳橋二丁目22番8号
 TEL.(03)5822-1129 FAX.(03)5822-1145
 横浜ランチ 〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目7番地1号日総第14ビル2F
 TEL.(045)473-8705 FAX.(045)473-8719
 名古屋支店 〒451-0053 愛知県名古屋市中区枇杷島一丁目21番30号
 TEL.(052)562-1741 FAX.(052)562-4135
 大阪支店 〒540-0025 大阪市中央区徳井町二丁目1番1号
 TEL.(06)6942-5551 FAX.(06)6942-5549
 岡山支店 〒700-0977 岡山市北区問屋町2番地101
 TEL.(086)241-7830 FAX.(086)241-7856
 松江営業所 〒690-0047 島根県松江市嫁島町13番地5号
 TEL.(0852)23-3211 FAX.(0852)27-5387
 広島支店 〒733-0842 広島市西区井口五丁目3-4
 TEL.(082)270-5121 FAX.(082)270-5123
 愛媛営業所 〒790-0043 愛媛県松山市保免西二丁目2番23号
 TEL.(089)994-8889 FAX.(089)994-8899
 福岡支店 〒811-2207 福岡県糟屋郡志免町南里六丁目8番1号
 TEL.(092)937-3730 FAX.(092)937-3750
 北九州営業所 〒802-0022 福岡県北九州市小倉北区上富野一丁目4-1-1 オフィスパリア上富野1A1号室
 TEL.(093)512-0720 FAX.(093)512-0740
 ユニフォーム研究開発センター 〒706-0224 岡山県玉野市八浜町大崎1212番地
 TEL.(0863)51-1517 FAX.(0863)53-9009
 岡山工場 〒700-0034 岡山市北区高柳東町8番1号
 TEL.(086)252-1131 FAX.(086)253-4432
 美咲工場 〒708-1523 岡山県久米郡美咲町吉ヶ原954番地
 TEL.(0868)62-0122 FAX.(0868)62-0797
 玉野物流センター 〒706-0224 岡山県玉野市八浜町大崎1212番地
 TEL.(0863)51-1522 FAX.(0863)51-1243
 紅陽台物流センター 〒706-0134 岡山県玉野市東高崎25番地8
 TEL.(0863)71-4466 FAX.(0863)71-4471

【事業内容】

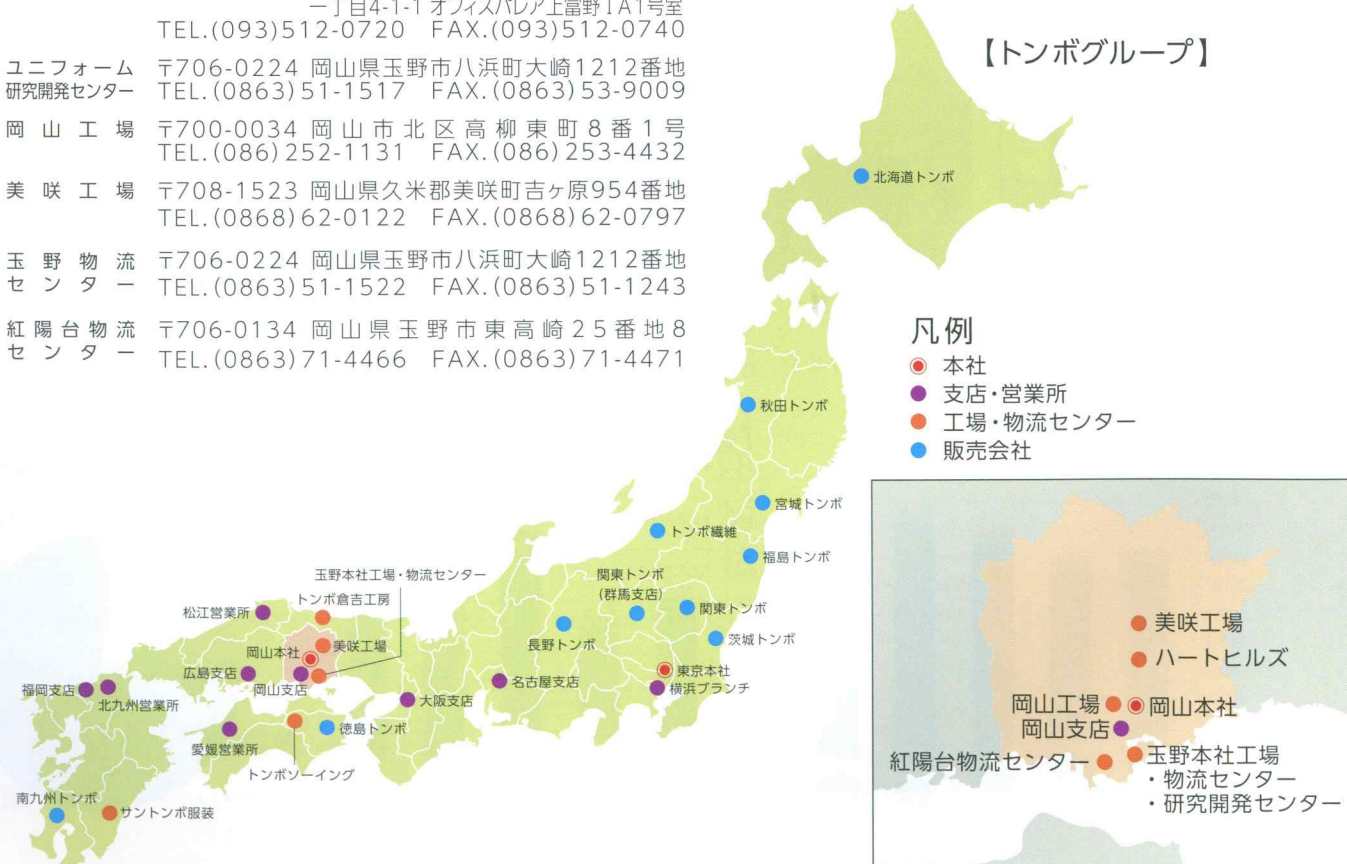
スクールユニフォーム、スポーツウエア
 介護・メディカルウエアなどの企画、製造、販売

【関連会社】

北海道トンボ株式会社
 秋田トンボ株式会社
 宮城トンボ株式会社
 福島トンボ株式会社
 関東トンボ株式会社
 茨城トンボ株式会社
 株式会社トンボ繊維
 長野トンボ株式会社
 徳島トンボ株式会社
 南九州トンボ株式会社
 株式会社モリ商会
 株式会社トム
 株式会社マリカ
 株式会社マイク
 トンボソーイング株式会社
 サントンボ服装株式会社
 株式会社ハートヒルズ
 株式会社トンボ倉吉工房
 株式会社トンボシステム
 株式会社トンボ保険サービス

(株)トンボ：17拠点
 本社・支店：11拠点
 研究開発：1拠点
 工場：3拠点
 物流：2拠点
 関連会社：20社

【トンボグループ】



営業拠点



岡山本社



東京本社

2018年7月より、岡山本社と東京本社の
 両本社体制となり全国の支店と合わせて
 11ヶ所の営業拠点を設けています。



名古屋支店



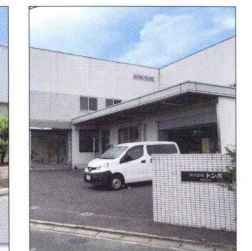
大阪支店



岡山支店



広島支店



福岡支店



横浜ランチ



松江営業所



愛媛営業所



北九州営業所

生産・物流・研究開発拠点

岡山県内に工場を3拠点と物流センターを2拠点、
 そしてユニフォーム研究開発センターを設けています。



玉野本社工場・物流センター



ユニフォーム研究開発センター



紅陽台物流センター



岡山工場



美咲工場



Top Message

代表取締役社長

近藤知之

青少年育成支援事業

株式会社トンボは、青少年の育成に貢献する支援活動として文化支援活動と、スポーツ支援活動の二つの支援活動を行なっています。文化支援活動には2つのコンクールの開催があります。

1.文化支援活動

①「WE LOVEトンボ」絵画コンクール

今年で33回目を迎えます。趣旨といたしましては、美しい自然のシンボルであるトンボを愛し、守る心を育成し、失われつつあるかけがえの無い自然と生き物の大切さを啓蒙するというものであり、基本テーマはトンボと自然を守ろうというものです。

小学生から中学生、また高校生までの生徒の皆さんにトンボやトンボのいる風景を描いてもらい優秀作品・優秀校を表彰するというコンクールです。文部科学省・環境省の大臣賞も各々8名の表彰があり、昨年の応募校は4,864校、応募総数は144,550点でした。これほど長きにわたり応募総数の多い絵画コンクールは他に例を見ません。また、これほど多くの文部科学省・環境省の大臣賞があるコンクールも他にありません。11月に表彰式があります。今年も数多くの素晴らしい絵画に出会える事を楽しみにしています。

②11月29日いい服の日トンボアイデア・デザインコンクール

11月29日はトンボが一般社団法人日本記念日協会に「いい服の日」として登録している日です。また商標としても登録されています。

「いい服の日」はトンボが最良のユニフォームメーカー

として、こだわりを持った商品を提供し続けることを目的に、着る人が着心地に満足し、大人になれば自分の子供達に着せたいような服をつくることを使命としています。その気持ちを忘れない日として「いい服の日」を制定しました。この日を記念し毎年「11月29日いい服の日トンボアイデア・デザインコンクール」を開催しています。

全国の中学生・高校生を対象に、学校制服・体育着・介護ユニフォームのデザイン・アイデアを募集し優秀作品・優秀校を表彰するものです。今年で9回目を迎えます。昨年は944校の学校から8,064点の応募を頂きました。今年は更に応募が増加することが予測され、12月に岡山で表彰式が行なわれる運びになっています。昨年も素晴らしい作品に感動を頂きました。応募作の中から実際に商品化されヒット商品が生まれる事を期待しています。



学校体育着プリントデザインコンクール表彰式



岡山シーガルズ新ユニフォーム発表会 VLAP-2018-0005

スポーツの支援活動として代表的なものは次の2つのイベントです。

2.スポーツ支援活動

①VICTORYスポーツ教室

全国の中学校・高校に憧れのアスリートが直接出向き、講演と実技指導を無料で行なうプログラムです。今年で18年目を迎え全国で100校を超える学校で開催しています。開催参加校からはたくさんの感謝の言葉を頂いております。今後も是非ご応募頂きご活用下さい。

②学校体育着プリントデザインコンクール

今年から新たにスタートしたコンクールです。趣旨といたしましては、トンボの工場で使用している昇華プリント技術を使い、体育着・部活動着のデザインを提案してもらいます。応募対象者は中学生・高校生の生徒の皆さんです。応募作品の中から、優秀作品・優秀校を表彰するというコンクールです。今年7月のスポーツフォーラムの開催にあわせ表彰式を行ないました。初年度にもかかわらず北海道から鹿児島まで418校の学校、作品にして7,630点もの応募をいただきました。体育着・部活動ともに我々が考えつけない様な斬新なデザインの商品が目立ちました。盛況に終わり、次年度の開催が更に楽しみです。

今年7月6日に3回目となる「VICTORYスポーツフォーラム2018」を開催いたしました。

2年前からオフィシャルスポンサーをしている地元のバレーボールチーム「岡山シーガルズ」の新しいユニフォームを提供する事になり、その発表会も行いました。シーガルズは今年の秋より新生VリーグV1に参戦いたします。当日は山口主将以下、吉岡・田口・渡邊の4選手に新ユニフォームを着用してもらい皆様に披露させていただきました。

パネルディスカッションは元プロ野球選手の青島健太氏に3年連続で進行役を務めていただきました。

ラグビーの大畑大介氏、バドミントンの潮田玲子さん、バレーボールの木村沙織さん、フィギュアスケートの村上佳菜子さんをお招きして開催しました。アスリートの皆さんの体験談を、参加された150校の先生方が熱心に聴講されました。パネルディスカッション後の写真撮影会や懇親会もあり大変盛んなイベントとなりました。学校関係者やスポーツ教育の指導者の皆様とともに、スポーツの持つチカラや感動の素晴らしさを共有出来るイベントとして、このスポーツフォーラムを開催できました事を大変名誉に思います。これからもトンボは青少年の育成とスポーツの発展に貢献し続けて参ります。引き続きご支援を頂きますようお願い致します。

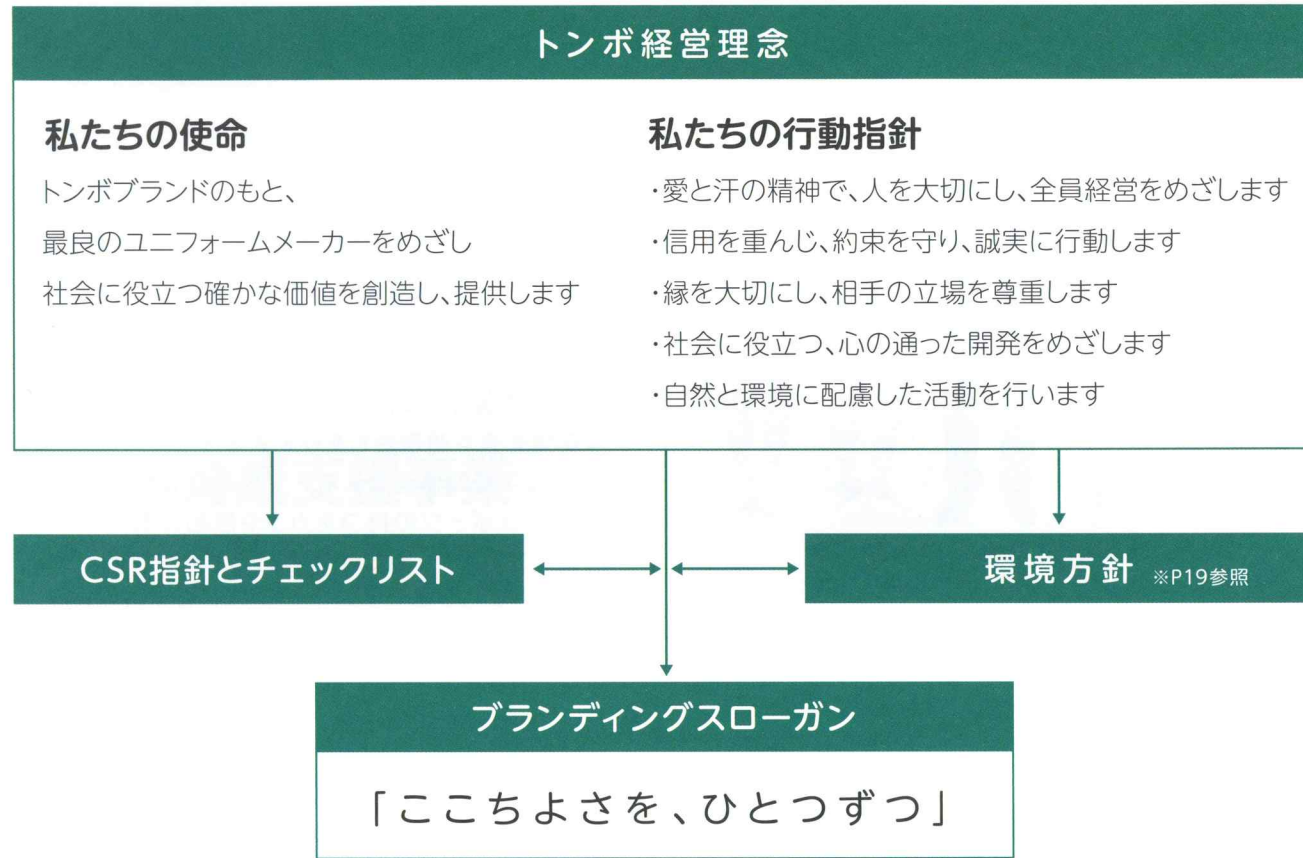
株式会社トンボは今期売上300億円を目指しています。お陰様をもちましてこの10年間は順調に発展をして参りました。今年6月には倉吉に新しい工場、トンボ倉吉工房スポーツ館を稼働させました。これからも「品質」・「納期」・「サービス」を重点にお客様のご要望に寄り添った製品を作り続けて参ります。どうぞご期待頂きますよう重ねてお願い致します。



VICTORYスポーツフォーラム2018

トンボのCSR^{※1}経営

トンボの経営理念に基づき、CSR指針・環境方針・ブランディングスローガンを策定しています。それぞれが相互に関連し合い、トンボ社員の行動規範となっています。



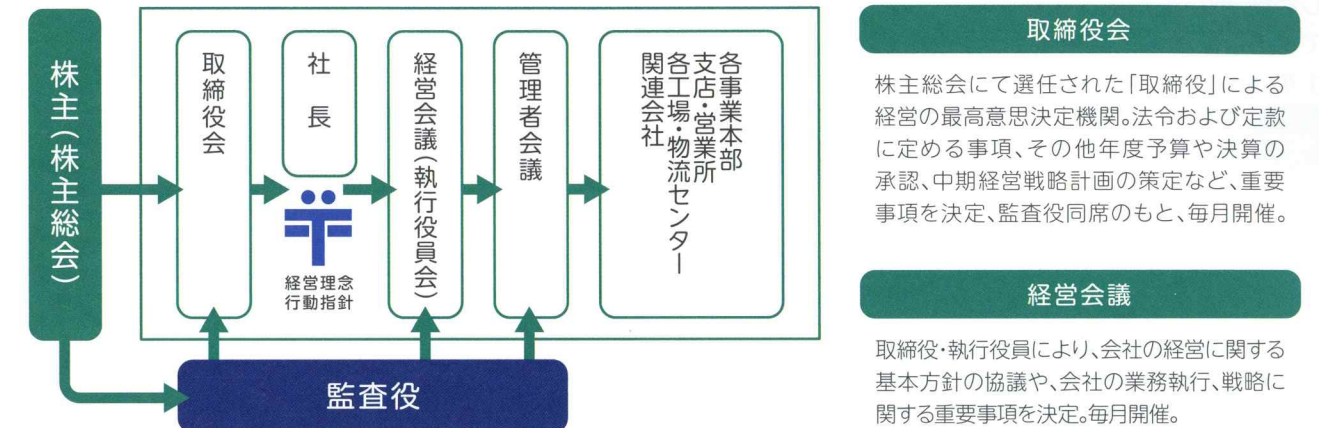
CSR指針とチェックリスト

社会が必要とする企業として、「私たちのCSR指針」を掲げ、社員一人ひとりが、「私たちのCSRチェックリスト」で、その行動をしっかりと確認しながら企業活動に取り組んでいます。

私たちのCSR指針 ～社会が必要とする企業として～	私たちのCSRチェックリスト ～日々の自分の行動を振り返ってみましょう～
<input type="checkbox"/> 人を大切にする経営を進めます <input type="checkbox"/> 適正品質と品質保証に努めます <input type="checkbox"/> 環境保全活動を推進します <input type="checkbox"/> 社会貢献活動を推進します <input type="checkbox"/> 法令、倫理規範を遵守します <input type="checkbox"/> 適切な情報開示を行います <input type="checkbox"/> トンボブランドに恥じない行動をします	<input type="checkbox"/> その行動、その商品はトンボブランドを傷つけませんか？ <input type="checkbox"/> 人の気持ちや意見を大切にしていますか？ <input type="checkbox"/> 自信を持ってその商品を世に出せますか？ <input type="checkbox"/> 法律やルールに触れませんか？ <input type="checkbox"/> 家族や大切な人を裏切ることになりませんか？ <input type="checkbox"/> 社会に迷惑をかけませんか？

コーポレートガバナンス^{※2}

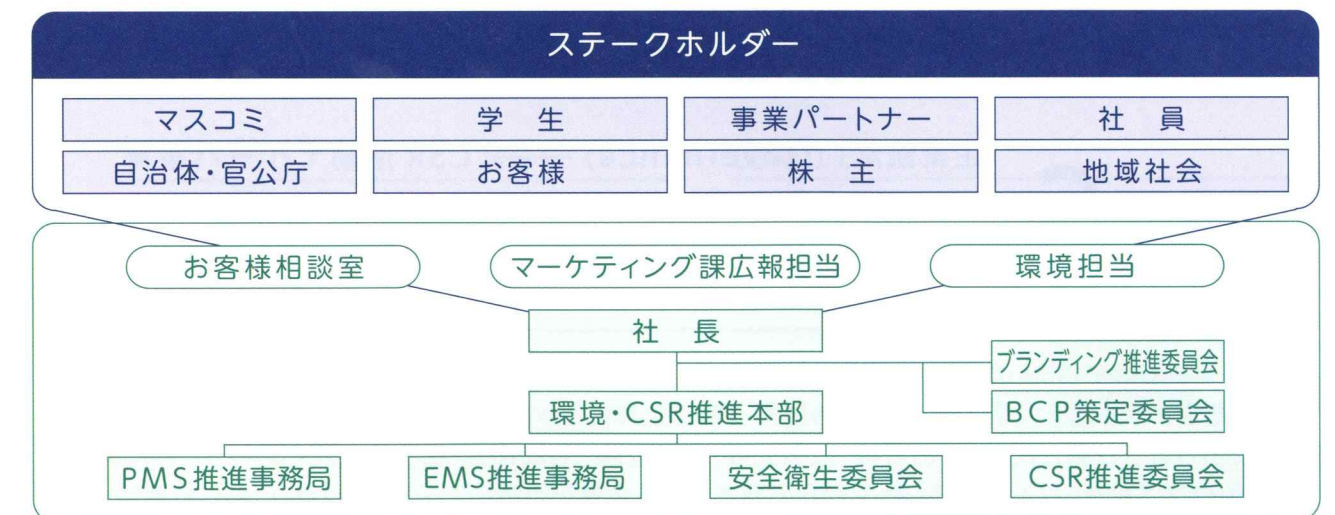
当社は、ステークホルダー^{※3}との良好な関係のもと、客観性・透明性の高いガバナンス体制の構築と、持続的な企業価値の向上を目指し、「取締役会」および「経営会議（執行役員会）」による迅速かつ正確な意思決定を行い、各事業部門にて業務を執行しています。



CSR推進体制

CSRの取り組みを進める社内体制として、社長直轄の「環境・CSR推進本部」を組織するとともに定期的に委員会や事務局会議を開催し、活動を推進しています。

- 社内外のコミュニケーション活動：【お客様相談室】【マーケティング課広報担当】【環境担当】
- お客様にまごころのこもった商品・サービスをお届けする為の社内活動の推進：【ブランディング推進委員会】
- 災害や緊急事態に備える事業継続計画の策定：【BCP策定委員会】
- 「JISQ15001」^{※4}に沿った個人情報保護のマネジメントシステムの構築と維持拡充：【PMS推進事務局】
- 「ISO14001」^{※5}に沿った環境保護活動、国際規格の維持：【EMS推進事務局】
- 安全衛生面の改善活動：【安全衛生委員会】
- CSRレポートの発刊及びCSR活動の推進：【CSR推進委員会】



※1 CSR(Corporate Social Responsibility):企業の社会的責任。社会における企業のあり方、地域社会の中での役割・責任。
 ※2 コーポレートガバナンス:企業統治、内部統制。企業が社会や個人のために、健全で持続的な企業活動を行うための仕組み。
 ※3 ステークホルダー:企業活動に関する利害関係者。
 ※4 JISQ15001:プライバシーマークの認定基準の日本工業規格。「個人情報保護マネジメントシステムの要求事項」
 ※5 ISO14001:ISO(国際標準化機構)が定めた企業活動、製品およびサービスによって生じる環境への負荷低減等、環境経営に関する国際規格。

CSR活動とは「企業経営そのもの」

CSRとは「企業の社会的責任」。企業とは社会に対し責任を果たし、何らかの価値を提供する事で存在価値があるという観点から言えば、CSRとは「企業経営そのもの」と言えます。よって、CSR活動を何か特別なものとして議論したり、取り組んだりするものではなく、経営するためには必要不可欠な活動である事を改めて認識するべきと考えます。トンボのCSR活動は13年目となります。変化が激しく、複雑化する社会環境の中で「トンボらしい社会的責任」とは何かを考え実践していく時期に来ています。自社の強み、存在意義を再認識し、それらを活かした企業戦略、経営指針の上に意味のあるトンボらしいCSR活動を今後実践して参ります。



専務取締役
環境・CSR推進本部
推進委員長 難波 照明

ESG

最近よく「ESG」「ESG投資」という言葉を耳にするようになりました。投資家が売上高や利益といった財務分析だけでなく環境と社会、企業統治の3分野に対する企業の取組みを踏まえて投資先を選ぶ手法と言われています。財務諸表が過去の実績を表すのに対して「ESG」は非財務情報であり、未来・将来の持続可能性を表す指標と言われています。環境・社会・企業統治の分野の課題にきっちりに対応していくことが、健全な企業の発展や成長の原動力となり、最終的には持続可能な社会の形成に貢献する企業とされ評価されています。



まさしく長年継続してきました「CSR」「EMS」活動は、トンボ企業経営の根幹をなしています。数字では表れない目に見えない価値を大切に守り、継続し続ける事が企業にとっては大切な時期に来ていると言えます。トンボは、引き続き社員とご家族・お客様・取引先様・仕入先様・地域社会・株主様と深く関わって参ります。最後に、色々な活動をしていく中で、社会から必要とされる企業を目指して一人ひとりが行動しお客様から最初にご指名頂ける「ファーストコールカンパニー」を実現して参ります。引き続き、皆様のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

コミュニケーション

当社は、さまざまな手法を用いてステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを深め、信頼関係をより高めていけるように取り組んでいます。

人と人の対面による直接的なコミュニケーションを中心に、インターネットによる情報開示も積極的に行っており、ホームページからさまざまな情報を閲覧して頂けるようになっています。

トンボ学生服

主なコミュニケーション手法

お客様

- ・お客様相談室
- ・トンボ総合展示会
- ・国際福祉機器展 等
- ・商品カタログ
- ・保護者向け情報誌「制服っていいね」



学生

- ・会社説明会
- ・インターンシップ受け入れ
- ・リクルート冊子



社員・OB

- ・社内情報共有システム(トンボネット)
- ・社内報
- ・キラク親睦会(会社概況説明会・親睦会)

株主

- ・株主総会
- ・決算報告書
- ・社員持株会

地域社会

- ・工場見学会(学校社会科見学)
- ・インターンシップ(高校生・大学生・社会人)
- ・チャレンジワーク(中学生)
- ・社会貢献活動
(地域清掃活動・収集ボランティア活動)

自治体・官公庁 マスコミ

- ・プレスリリース
- ・取材対応
- ・各種経営指標報告

事業パートナー

- ・販売代理店・販売店研修
- ・品質改善会議
- ・販売会社・協力工場・仕入先オンラインシステム

全体

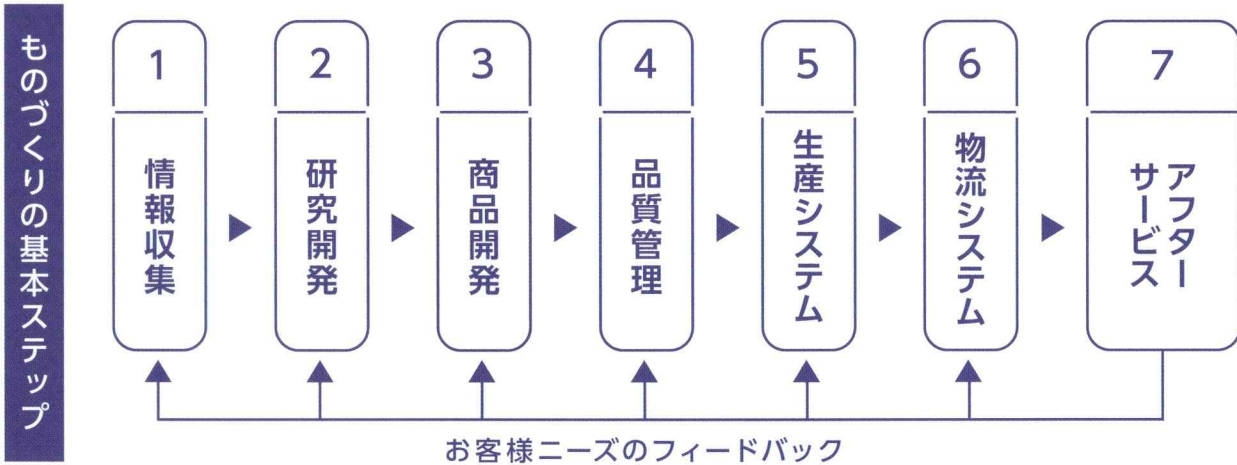
- ・ホームページ
- ・Facebook
- ・トンボCSRレポート
- ・トンボ歴史資料館案内
- ・工場案内
- ・会社経歴書



大賞・文部科学大臣賞 小学3年生の部
徳島県 徳島文理小学校 三谷 貴斗さん

TOMBOW Quality

お客様にとって心地よい制服を届けるために



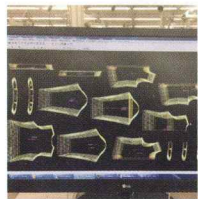
1. 情報収集

「お客様のニーズ」「業界動向・トレンド」
「新技術・新素材」などの定期リサーチ



2. 研究開発

「ユニフォーム研究開発センター」
「トンボ工房」による技術開発



アパレルCADシステム



デザインチェック

技術スタッフの声



スポーツ生産部技術課
佐藤 正和

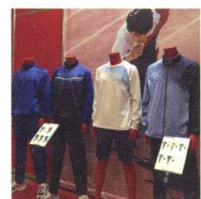
新しい仕様や素材が年々増えていく中で、お客様のニーズに対応出来るようにパターン作成、仕様の選択、縫製技術の開発など、トンボ品質の更なる向上に向け研究開発に日々取り組んでいます。

3. 商品開発

デザイン性・快適性・審美性など
様々な観点から新しい価値を
創造し、新商品を開発



学校制服



体育着

開発スタッフの声

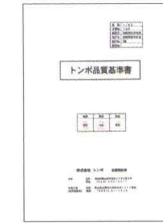


スポーツ商品開発課
木村 美紀

よりよい素材やデザインをいち早く取り入れ、常に進化した商品が提供できるよう商品開発に取り組んでいます。着心地やデザイン、機能性などを極め、ウェアを着用して下さるお客様のパフォーマンスアップをサポートできる商品作りを目指しています。

4. 品質管理

「トンボ品質基準」の制定
「性能評価試験室」の設置により安全性、
耐久性などを自主基準にて厳しく管理
「繊維製品品質管理士」「縫製・パターン
技能士」などの資格取得を推進



トンボ品質基準書

5. 生産システム

「生産管理システム」「自動設計
システム」「工程進捗管理システム」
など小ロット多品種によるオーダー
に対応した生産管理



昇華転写プリント



昇華転写プリント
データ設計

生産スタッフの声



美咲工場
森 寛美

多様化するニーズにお応えし、
年々増加する新規商品へ
素早い対応と品質の良い
ものづくりに取り組んでい
ます。そして何よりも、心を
込めた製品をお客様にお
届けすることを常に考えた
ものづくりを行っています。

6. 物流システム

バーコード識別による
物流システムを導入
コンピューター管理で
全国へ的確に配送・納品



全自動梱包機



バーコード管理

物流スタッフの声



物流サービス部
元山 亮

お客様に必要な商品を確
実にお届けすること、それ
が物流センターの使命です。
出荷ミス防止に対する意識
を高く持ち、社員全員で情
報を共有しながら業務に取り
組んでいます。

7. アフターサービス

全国のグループ販売会社・
代理店・販売店と連携した
フォロー体制
「お客様相談室」の設置
「制服着こなしセミナー」の開催



お客様相談室



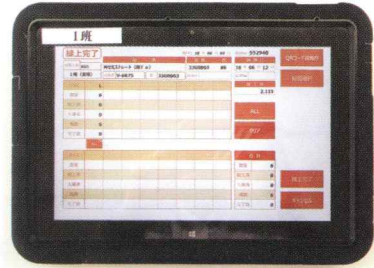
制服着こなしセミナー



大賞・文部科学大臣賞 小学4年生の部
大阪府 南大江小学校 岩倉 胡桃さん

タブレット端末による納期管理

生産管理の上で特に重要なのが納期管理です。スポーツ生産部ではタブレット端末の「縫上げ在庫システム」を導入。以前のような帳票用紙を使うことなくタブレット端末でリアルタイムに納期確認ができ、素早い対応が実現しました。さらに、縫製ラインへの投入縫上げ計画も、仕様書上のQRコードを読み取ることで、投入順序の決定や縫上げ、在庫エントリーも可能に。これにより、以前と比較して作業の効率化・省力化が格段に向上しました。



制服着こなしセミナーの開催

生徒の皆さんに制服の着こなしを正しく理解していただくため、トンボでは業界に先駆け「制服着こなしセミナー」を行なっています。制服は与えられるものではなく、それを着る生徒自身が考え、自覚を持って着こなすもの。正しい着こなしには、正しい知識が必要です。トンボのセミナーは、制服の意味やフォーマルとカジュアルの違いなど、イラストやクイズを交えながら中高生に伝わりやすい内容を心掛けています。この活動を通じて、生徒の皆さんの制服に対する意識を高め、美しい制服姿を着こなしを楽しんでいただきたいと思います。



クレーム管理アプリの運用を開始

トンボには、年間を通して、お客様より様々なクレームが寄せられています。このクレーム情報を一元管理するアプリケーションの運用を、2017年7月より開始。クレーム管理アプリは、トンボグループ間にてクレーム情報の共有・早期解決を目的としています。私たちトンボは、お客様からのお問合せや疑問・クレームを迅速に解決することで、安心と満足をお届け致します。また、過去の事例を繰り返さない為にも、貴重なご意見をよりよい商品開発へとつなげて参ります。

日本スポーツ用品工業協会に加盟

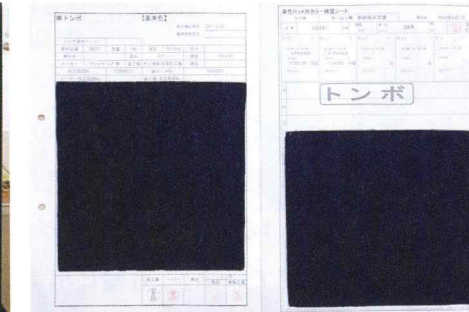
トンボでは2018年1月、一般社団法人日本スポーツ用品工業協会(JASPO)に加盟しました。同協会は、スポーツ用品(用具、衣類など)の品質向上、安全性の確保を通じて、その生産及び貿易の改善合理化と利用消費の効率化を図り、わが国スポーツ用品産業の健全な発展と国民体育の増進に寄与することを目的としています。トンボはこれまで学校体育における、快適性・安全性を備えたスポーツウエアを開発してきました。さらに近年は、サッカー、バレーボールなどのゲームウエアの開発にも業務範囲を広げています。特に競技用ウエアには高度な技術と品質管理が求められます。今後もより良い商品を供給することで日本のスポーツ発展に貢献してまいります。

美咲工場に品質認証課を設置

2017年6月、美咲工場に「品質認証課」を新設しました。設置目的は、前期に生地の色違いのために危うく大きなクレームになりかけたこと、また年々増加する体育着、介護衣料のニーズに、「お客様に安心と満足をお届けするために」さらなる品質向上を期して発足いたしました。今期は表材料確認の色基準を策定し、また原反の不良を事前チェックし生産工程への流入防止に取り組みました。さらに来期は課員も増やし製品品質の追突を加速しお客様目線でクレーム削減に努めて参ります。



クレーム事例の情報共有



カラー確認シート

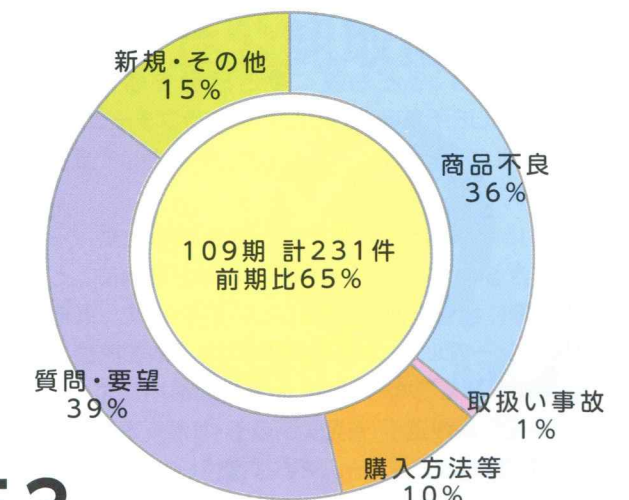
製品開発研究室の活動

2016年6月に「製品開発研究室」が設置され、今期は2年目の活動となりました。今期も設置目的である、新商品の重大クレームを未然に防ぐ事と、今までにない新しい発想の新商品開発に取り組んできました。開発中の新パターン、新素材を採用した試作品を社内モニター(社員・家族)が一定期間着用し、また、何度も洗濯を行い、外観変化、劣化の有無を確認し、ご採用校での着用前に安全性、耐久性を実証してきました。お客様に安心と満足をお届けする為、経験豊かな技術のつわもの達が五感を尖らせ、今後も引き続きトンボ品質の向上に努めて参ります。



お客様相談室

お客様相談室には、1年を通じて様々なお問い合わせや、お客様の声を頂戴しています。メーカーとして迅速・丁寧な対応を心掛け、関連部署とも連携しながらお客様の声にお応えしております。商品クレームに対しては、部署横断により原因究明と改善に取り組み、また、ミス根絶への意識高揚の為、クレーム品の社内開示を行っています。前期は、お問い合わせの多かった事を、HPに積極的に追記したり、電話のガイダンスの工夫をした事で、前期比65%のお問い合わせとなりました。お客様からいただいたご質問・ご要望は、貴重なご意見として全社で共有し製品やサービスの向上に反映させて頂いております。



相談内容の内訳

0120-314-253

(お客様相談室フリーダイヤル)

VICTORYスポーツフォーラム2018

世界で活躍したトップアスリートと、中学校・高校の先生方との間で「スポーツのチカラ」「スポーツの持つ感動の素晴らしさ」を共有する「VICTORYスポーツフォーラム2018」を前期に続き、7月6日東京都内で開催しました。

今期も、司会進行役は元プロ野球選手の青島健太氏が務め、パネリストはバドミントン元オリンピック代表の潮田玲子氏、バレーボール元全日本チームキャプテン木村沙織氏、ラグビー元日本代表キャプテン大畑大介氏、プロフィギュアスケーター村上佳菜子氏の4名。中学校・高校のときのスポーツ体験やトップステージへ上がるきっかけなどを中心にお話しいただき、来場いただいた先生方は、熱心に耳を傾けていらっしゃいました。

ディスカッションの主なポイント

潮田 玲子氏「勝てるようになって楽しくなり、長く続けられたのは先生との出会いがあったから」

大畑 大介氏「足の速さで自分の居場所を見つけ、勝ちへの道となった」

木村 沙織氏「『お前が負けたら日本は負ける』と言われ意識が変わった」

村上 佳菜子氏「浅田真央ちゃんの姿を見て感動し、五輪に出場したいという気持ちが強くなった」



主催：朝日新聞社、朝日学生新聞社、日刊スポーツ新聞社
後援：スポーツ庁、全国市町村教育委員会連合会、(公財)日本中学校体育連盟、(公財)全国高等学校体育連盟

岡山シーガルズの支援

トンボでは、子ども達に夢と感動を届けるため、V.LEAGUE所属の数少ない市民クラブチームの「岡山シーガルズ」をオフィシャルスポンサーとして支援しています。

「岡山シーガルズ」の選手から直接指導を受けることができる「バレーボール教室」を岡山県内にとどまらず一緒に全国各地で開催しています。また、来期より「岡山シーガルズ」の新しいユニフォームを提供させていただくこととなり、7月6日東京都内にて、山口舞選手・田口絢佳選手・吉岡美晴選手・渡邊真恵選手に登場いただき、新ユニフォームをお披露目しました。



VLAP-2018-0005



大賞・文部科学大臣賞 小学6年生の部
茨城県 白方小学校 照沼 龍星さん

学校体育着プリントデザインコンクール

「自分のデザインを実際の体育着に」。トンボの強みになっている昇華技術を使ったデジタルプリントを活用し、体育着・部活着を自由に描いて頂くコンクールを開催。2月～4月の期間で募集し、体育着・部活動の2部門に対し、418校7,630枚という多くのご応募を頂きました。さらに、最優秀賞・優秀賞・学校賞に輝いた方々は、東京で行われた2018トンボ総合展示会に招待し表彰式を開催。応募デザインを実際の体育着や部活着として製品化し、ファッションショー形式でお披露目しました。「自分のデザインが実際に体育着になったら」そんな夢のあるコンクールは来期も開催を予定しています。



最優秀賞(学校体育着の部)

New体育着



佐賀県立有田工業高校
前田 桃華さん

最優秀賞(部活動の部)

さわやかTENNIS CLUB!



仙台市立八軒中学校
関 日那さん

公益財団法人日本バレーボール協会公認取得

トンボでは、体育着だけでなく様々な部活向けウエアを積極的に開発しています。

今期は新たにバレーボールのゲームウエアの販売を開始しました。より良い商品開発と商品供給に対応すべく、2018年4月に公益財団法人日本バレーボール協会(JVA)公認も取得しました。公認メーカーとして幅広く社外にアピールし、バレーボール競技発展に貢献して参ります。



公益財団法人
日本バレーボール協会

トンボ倉吉工房スポーツ館

2018年6月20日にトンボ倉吉工房スポーツ館の竣工式を執り行いました。ここ数年で激化しているシェア争いに対応し、安定供給するために整備を行いました。延床面積約730㎡を新設し、ミシン・アイロン等の設備約120台を配置しました。初年度は地元採用を中心に20名体制で操業を開始して4万点、3年目には40名体制で11~12万点を生産する計画です。子会社では初めてスクールとスポーツの両方を生産する会社となりますが、社員一丸となって品質・生産性ともにグループNO. 1を目指します。



ファジアーノ岡山オフィシャルスポンサーデー

トンボは2017年シーズンから地元のプロサッカークラブ「ファジアーノ岡山」のオフィシャルスポンサーとして支援しています。2017年11月、初めてのオフィシャルスポンサーデーが開催され、従業員やその家族も参加しました。試合開始直前のピッチに寝転がったり、ベンチに触れることができ、子ども達だけでなく大人達も大興奮。少しだけサッカー選手になった気持ちになれました。それだけではなく、大観衆が見つめる中、子ども達はエスコートキッズとしてファジアーノ岡山の選手と共に入場させてもらい、参加者にとっては貴重な体験となりました。サッカーというスポーツで岡山を盛り上げてくれるファジアーノ岡山を、同じ岡山の企業として今後も支援して参ります。



大賞・文部科学大臣賞 中学生の部
愛媛県 河北中学校 渡邊 雅子さん

新コマーシャル放送

トンボ学生服の新CMを2018年1月~3月、主要都市を中心に放送しました。この制服を着なくなってしまうのだと寂しく思う姿を描いた中学校卒業編と、新しい高校の制服を着て、喜びにあふれる姿を描いた高校入学編。CMに出演しているのは、中高生の人気も高く、この年代を演じるのにピッタリのモデル田鍋梨花さんです。学生服との別れと出会いを丁寧に描くことで、「学生たちをあたたく見守る」トンボ学生服の企業姿勢を幅広い世代の方にお伝えしました。



MAX PLUS 清潔学生服本格始動

抗菌防臭加工が加わり、さらに充実した詰襟学生服、「MAX PLUS」が今期新たにデビュー。「MAX PLUS」は、SEKマークを取得したトンボ史上最高の清潔学生服です。SEKマークとは、「S:清潔・E:衛生・K:快適」の意味で、その安全性は、(一社)繊維評価技術協議会が認めています。特に抗菌防臭(細菌の増殖を抑制)にその優れた効果を発揮し、更に特許を取得したデュアル襟芯、合金入り肩パッド、Wグローイング、消臭脇当て、ムービングアクトなど材料や仕様にも拘った逸品です。これまでのMAXを凌駕する「MAX PLUS」にご期待ください。



ペット用品事業

2014年7月にスタートしたペット用品の新規事業は「歩行補助ハーネスLaLawalk」を中心に展開を拡大しています。カタログを設置した動物病院は全国で2,200件を越えました。国内のみならず海外から非常に高い評価を受け、今期は韓国の展示会に3回ブース出展しました。また台湾の店頭販売や中国での越境ECでの販売も進んでいます。新商品としてはスポーツウエアで培った昇華転写の技術を活かして元気なワンちゃんに向けた高機能でファッショナブルなフィールドウエア「ACTIVE WAN」を発売し、さらに事業の拡大を図っています。





大賞・文部科学大臣賞 高校生の部
兵庫県 神戸甲北高校 橋本 正也さん

環境方針と環境負荷低減活動

トンボが事業活動で使用しているエネルギーで、電力が最も大きなウエイトを占めています。このため当社では、全社的な節電対策などにより、CO₂の削減に取り組んでいます。その他、自然エネルギーの一つであるグリーン電力を使用した詰襟学生服の製造や、減らせなかったCO₂に対して自らの責任を果たすために、CO₂を相殺するカーボンオフセットにも取り組んでいます。

環境方針

基本理念

株式会社トンボは、創業時よりのブランド「**トンボ**」を旗印として、最良のユニフォームメーカーをめざし、地球環境の保全が最重要課題の一つであることを全社員で自覚し、次世代に向けてトンボが雄飛する美しい地球環境のもと、豊かで住みよい循環型社会を実現する企業活動を展開し、社会に貢献します。

基本方針

1. 環境マネジメントシステムの確立と継続的改善の推進

私たちは、国際規格に基づいた環境マネジメントシステムを構築し、実施し、維持し、定めたテーマに沿って、環境パフォーマンスの継続的な改善活動を推進します。

2. 環境保全活動の推進

私たちは、環境に与える影響を認識し、評価し、汚染の予防を含めて、環境影響を考慮した企業活動を展開します。

3. 環境上の法的要求事項及びその他の要求事項の順守

私たちは、当社の環境側面に関係して適用可能な法的要求事項及び当社が同意するその他の要求事項を順守します。

4. 企業活動の展開

私たちは、ユニフォームウエア等の企画、設計、製造、販売において、環境影響を考慮し、また地球温暖化防止に向け、日常業務と一体化した活動を展開します。

- ①環境に配慮した素材の導入と製品開発・販売の推進。
- ②使用原材料に含まれる有害物質の安全基準の順守。
- ③資源の有効活用及び省エネルギーの推進によるCO₂排出量の削減。
- ④3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進。
- ⑤カーボンオフセットの実施

5. 自然保護活動の推進

私たちは、以下の自然保護活動を推進します。

- ①トンボ環境委員会活動の推進。
- ②トンボ絵画コンクールへの協賛支援。
- ③トンボと自然を考える会への協賛支援。
- ④学校のピオトープづくり、環境学習への側面支援。
- ⑤真庭トンボの森づくりによる、生物多様性への寄与と自然環境学習の場の提供。

6. 環境方針の周知徹底と公開

環境方針は、社員並びに当社の企業活動への協業者に環境教育を通して周知し、全員が理解、実践できるよう啓発活動を推進します。

また、この方針は広く一般の人々に公開して、社会と共生する環境活動を推進します。

7. 環境方針の見直し

定めた環境目的・目標が状況の変化に適應できるように、また環境方針が当社にとって適切かつ有効であり続けるように、私が見直しを行います。

2016年7月1日宣言

株式会社 トンボ
代表取締役社長 近藤 知之

環境負荷低減への取り組み

事業活動における環境負荷低減のため環境マネジメントシステム(ISO14001)に全社で取り組んでいます。取り組みは、各事業本部、間接事務部門、支店、工場、物流センターなど17部門の単位組織で行っています。全社で取り組む共通課題や複数部門が取り組む課題で優先順位の高い目標とその結果について以下に記載します。 ※今期より名古屋支店をサイトに加え、全17部門となりました

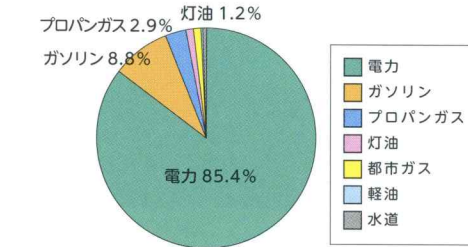
今年度の目標	テーマ	取組状況	達成状況	評価
①CO ₂ 排出量の削減	電力使用量の削減、 残業時間の削減	全17部門の取り組み	2,457.1 t-CO ₂ の目標に対し、全社では 102.7% の 2,522.9 t-CO ₂ となり、目標より2.7%、65.8 t-CO ₂ 超過しました。	※ △

エネルギー別CO₂発生比率

エネルギー別CO₂発生比率は以下のとおりです。昨年に比べ、電力が 1.6ポイント減り、ガソリンが 1.5ポイント増えましたが、電力とガソリンを加えたCO₂発生比率 94.1%は近年ほとんど変化ありません。

CO₂の発生比率が大きい電力とガソリンについて、電力は全部門、ガソリンは支店で削減目標を設定し取り組みましたが、結果的に全体で目標を2.7%上回り未達成となりました。要因としては繁忙期の12月以降に電力とガソリンの使用量が増え、17部門中9部門で目標を達成できなかったためです。今後も全事業所で継続的改善ができるよう立案し、努力して参ります。

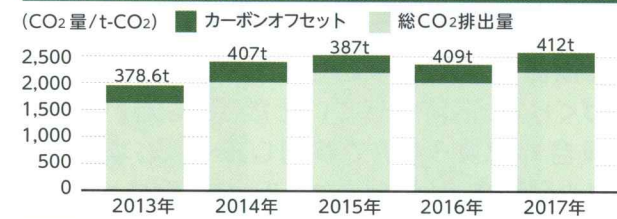
【エネルギーフローの構成】エネルギー使用構成表



【電力使用量の推移】



全社のCO₂排出量とカーボンオフセットの推移



左のグラフは、過去5年間のCO₂排出量です。今年度は名古屋支店が新たにサイトに加わったことありますが、前年に対し排出量増となり、名古屋支店の純増分を除いても、結果的に22 t-CO₂増の状況です。カーボンオフセットは、7年目を迎え412 t(前年度比+3 t)を行いました。前年度と比較して、75.4 t-CO₂の負荷が増加しました。

売り上げ1億円当たりのCO₂排出量の推移

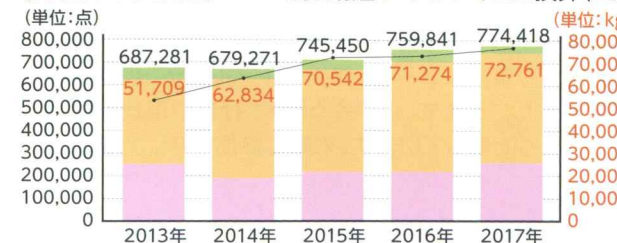


今年度の目標	テーマ	取組状況	達成状況	評価
②エコ製品の販売促進	学校採用の拡大と ヘルスケア商品の普及	事業本部及び支店の 9部門で取り組み	全9部門が個々の目標で活動。採用校数14校(目標12校)、 販売数563,091点(目標483,000点)、品番数195品 番(目標137品番)など大幅に目標を上回りました。	※ ◎

当社のエコ製品は再生ペットリサイクル素材を利用したものです。

エコ商品販売点数とCO₂削減量の推移

【繊維製品(衣料品)のLCA調査報告にもとづくCO₂換算(2003年5月版)】



2017年度のエコ製品(再生PET素材使用)の販売点数は、774,418点となりました。バージンポリエステルを使用した場合と比べて72.8 t-CO₂の削減となりました。前年比約1.5 t-CO₂の環境負荷低減が出来ました。

- 学校制服
- 体育着
- 介護ウエア

※評価基準は◎は目標値の100%以上、○は目標と実績の差が2%以内△は5%以内です

真庭トンボの森づくり活動

2012年から始まった「真庭トンボの森づくり活動」。社員と家族、それに真庭市民が協同で下草刈りや階段づくり、遊歩道の整備などに取り組んでいます。昨年は計3回の活動で延べ266名が参加。作業だけでなく、モノづくり体験やミニコンサート等もあり、リフレッシュできる場にもなっています。地道な活動により当初は薄暗かった森の中にも日が差し込むようになり、多様な動植物が共生する森へと変わりつつあります。身近に参加できる自然保護活動として、今後も継続して進めて参ります。



下草刈り



間伐作業

児童養護施設の子どもたちを招待



2017年7月初めての試みとして、岡山市内にある南野育成園の子どもたちを「真庭トンボの森づくり」に招待させていただきました。施設の職員含め総勢34名で参加していただき、下草刈りや階段作り、またスケッチ会も行ないました。昼食後はスイカ割りで盛り上がり、ご参加くださった皆さんと楽しいひと時を過ごすことができました。

社員の声



真庭トンボの森づくりに参加して

玉野本社工場 藤高 清美

森づくりは6年を経て、今ではとてもきれいな森になりました。当初、笹が胸の高さまで伸び木々もうっそうとし、はさみで笹を1本1本刈ったり、足元が悪かったりと毎回悪戦苦闘しながら森づくりを始めました。刈払機での作業や、チェーンソーの使い方、木の皮の剥き方、森での過ごし方等たくさんの事を学び、刈払機は実践できるようになりました。そして、ツリーハウス・森の舞台・ベンチや階段などたくさんの物を作り、舞台はアーティストのダンスや歌を披露する場となり、背景の爽やかな緑と相まって毎回感動しています。森で会うトンボ社員や現地の方々が森仲間となり、会える事が楽しみでライフワークとなっています。来期も参加し新しい森仲間と会える事を楽しみにしています。



大賞・環境大臣賞 小学1年生の部
福岡県 千代小学校 草野 宗汰さん

「WE LOVE トンボ」絵画コンクール

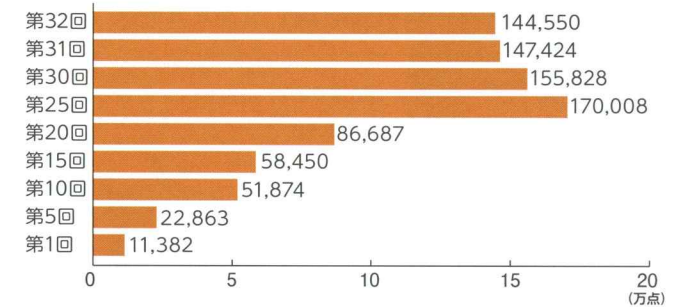
美しい自然のシンボルでもある「トンボ」を観察し、描くことで、子ども達が自然と生き物の大切さに気づき、自然を守る心を育んでもらいたい。その思いに学校関係者様をはじめ、広く皆様にご賛同いただき、「WE LOVE トンボ」絵画コンクールは、今期で第33回目を迎えます。

創業110周年記念事業として始まったトンボの楽園「トンボ王国」（高知県四万十川）づくりの支援とともに、トンボの棲む環境の大切さを広く伝えるために「WE LOVE トンボ」絵画コンクールの協賛を32年間継続しています。

第1回目では、応募点数が1万点強であった「WE LOVE トンボ」絵画コンクールも「美しい自然のシンボルであるトンボを愛し、守る心を育成し、失われつつあるかけがえのない自然の生き物の大切さを啓蒙する」という趣旨のもと、32回を重ねた前回は全国各地から14万点以上もの応募をいただきました。

「トンボと自然を守ろう」をテーマに、子ども達にトンボの絵を描く機会を提供、豊かな発想力と技術レベルの高い作品が多数寄せられました。小さな生き物への愛情を美しい自然の中で描いたものや、都市や宇宙を舞台に想像力あふれる作品など、バラエティーに富んだ応募作品の数々が、今回も審査員をうならせ、大変充実したコンクールとなりました。今後も子ども達の描いた素敵な作品に、たくさん出会えることを願い、コンクールの輪を広げていきたいと思えます。

■応募数推移



大賞・環境大臣賞
小学4年生の部



大賞・環境大臣賞
高校生の部



大賞・文部科学大臣賞
小学3年生の部



大賞・文部科学大臣賞
中学生の部



表彰式



記念撮影

トンボ絵画コンクール

■主催：朝日新聞社 朝日学生新聞社
 ■後援：文部科学省 環境省 全国都道府県教育委員会連合会 全国市町村教育委員会連合会 全国連合小学校長会
 全日本中学校長会 全国高等学校長協会 全国高等学校文化連盟 全国高等学校美術工芸教育研究会
 日本PTA全国協議会 世界自然保護基金ジャパン(WWF Japan) 日本トンボ学会 トンボと自然を考える会
 ■協力：株式会社サクラクレパス

11月29日 いい服の日

<http://www.tombow.gr.jp> トンボ いい服 検索

最良のユニフォームメーカーを目指し、着る人が着心地に満足し、大人になったとき自分の子どもにも着せたいようないい服をつくるのがトンボの使命です。その気持ちを新たに作る日として「いい服の日」を制定し、様々な催しを行っています。

※11月29日は、「いい服」の語呂合わせとして、2010年に日本記念日協会へ登録されました。また商標としても登録されています。(第547581号)

1129トンボアイデア・デザインコンクール

学校制服や体育着のアイデアを募るコンクールも今期で第8回の開催となりました。全国の中学校・高等学校様より作品を募り、アイデア部門1,526点、デザイン部門6,520点、合計8,046点ものたくさんのご応募をいただきました。

最優秀賞(アイデア部門)

いつでも簡単にうでまくり!

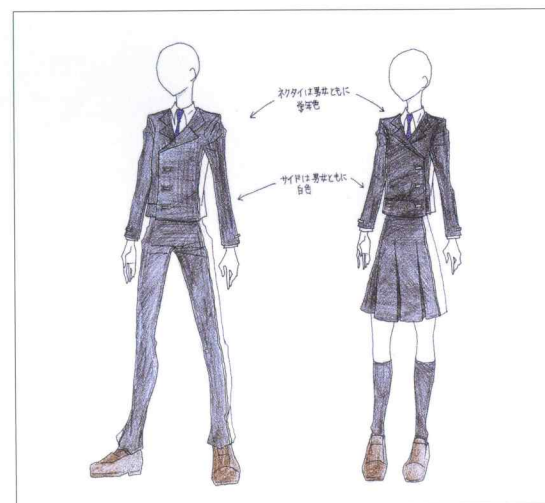


制服のカッターシャツの袖の先にゴムが入っており、簡単に腕まくりが可能

坂井市立丸岡中学校 2年 十九波 賢吾さん

最優秀賞(デザイン部門)

シンプル制服サイドホワイト



横浜市立日限山中学校 3年 出口 佳乃さん

11月29日 いい服の日記念式典

2017年11月29日、玉野本社工場120ホールにて社員及びアイデア・デザインコンクール入賞校の先生や生徒の皆様、マスコミ関係の皆様も含め、多くの方々にお集まりいただき、記念式典及び表彰式を開催しました。その中でも、優秀賞を受賞した作品をカタチにし、ファッションショーを行いました。今期は、専門学校岡山ビジネスカレッジ、倉敷ファッションカレッジの生徒の皆様にもご協力をいただき大変盛り上がりしました。



アイデア部門 最優秀賞受賞
坂井市立丸岡中学校 十九波 賢吾さん



デザイン画部門 最優秀賞受賞
横浜市立日限山中学校 出口 佳乃さん

キラク介護川柳

<http://www.kiraku.gr.jp> キラク介護川柳 検索



大賞・環境大臣賞 小学2年生の部
兵庫県 広田小学校 太田 結々さん

介護にまつわる川柳を募集しているキラク介護川柳は、毎年たくさんのご応募をいただき、第11回目を迎えることができました。「毎年楽しみにしています」とおっしゃる方も多く、キラク介護川柳がたくさんの方々から支えられていることを実感しています。寄せられた川柳からは、相手を思いやる優しさ、介護と向き合う強さ、辛いこともユーモアに変えて笑い飛ばすおもしろさが伝わってきます。それらは川柳に触れた私たちに、前向きに進むパワーを与えてくれます。これからもキラク介護川柳を通して、たくさん笑顔と元気が生まれることを願っています。

第10回受賞作品 (2017年3～6月募集分)

キラク大賞

「雨カエル歩けないかととぼけ顔」
ペンネーム 雄山様

優秀賞

「なんでやる毎日思うんでやる」
ペンネーム ペチャこ様

「認知症優しさだけは忘れない」
ペンネーム イッコウ様

「認知症神様からのプレゼント」
ペンネーム いっしー様

■キラク大賞表彰式

加藤正光様
老人保健施設やすらぎ様のご応募いただいた川柳は、加藤様が考え、他の利用者様が文字におこし、スタッフの方も交えた皆様で厳選した句を、応募くださっていただきました。「みなさんと一緒に作った川柳で、このような賞を取ることができてとても嬉しい。本当にいつもありがとうございます。」と、感謝の気持ちを伝える加藤様に利用者様とスタッフの方も何度も拍手を贈られていました。



表彰式にて

鈴木ひとみ賞

「介護には無いと思った笑い声」
ペンネーム カーブさん様

団体賞

デイケア フリージア様

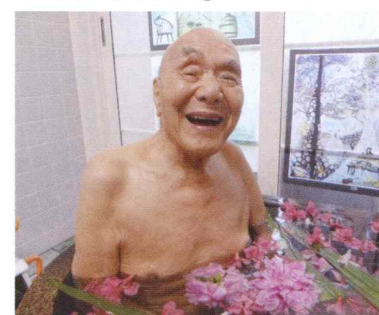
キラクふれあいフォトコンテスト

第8回目を迎えたキラクふれあいフォトコンテストでは、介護のふれあいから生まれる「笑顔」と「感動」をテーマにした作品を募集しています。今回も写した人、写された人のあたたかな関係性を垣間見ることができる素敵な写真がたくさん寄せられました。周囲の方々にあたたかく見守られながら、日々の生活を生き生きと過ごしていらっしゃる姿が垣間見られ、心がほっこり、あたたかい気持ちになる作品ばかりでした。これからも介護に携わる多くの方にとって、キラクふれあいフォトコンテストが元気や心の癒やしになることを願っています。

第8回受賞作品 (2017年11月～2月募集分)

キラク大賞

「こりゃええわい!」



ペンネーム じゅらく様
お風呂祭りの一コマ。菖蒲湯で、身も心もリフレッシュ!お風呂が大好きな利用者様も、大満足の様子でした!

優秀賞

「伝統を守る」



ペンネーム makaho様
わら草履をつくるおばあちゃん。とても元気で、伝統を守り続けています。

「クリームついてるよ」



ペンネーム tksq様
祖父の卒寿祝い。糖尿病で日頃食事制限されている祖父、この日は大好きなケーキを食べ満足顔。お口ついたクリームを当時4歳の娘が自ら拭き取ってくれて、みんな笑顔に。

「楽しいリハビリ」



ペンネーム あーちゃん様
骨折で2カ月入院した時に仲良くなったシズおばあちゃん。リハビリの時間はスタッフの方と楽しい時間を過ごしました。



トンボオリジナルキャラクター 「トンボ学君」「トンボ衣乃ちゃん」大活躍



大阪国際滝井高校 制服着こなしセミナー

大阪国際滝井高校様では、トンボの制服をご採用いただいて以降、「制服着こなしセミナー」を毎年開催させていただいております。今回はスペシャルゲストとしてセミナーの後半から、「トンボ学君」と「トンボ衣乃ちゃん」がステージに登場!さらに、学校のオリジナルキャラクター「グローバニーちゃん」も参加していただきました。途中には、制服についてのクイズも交え、生徒様も楽しく、分かりやすく着用している制服について学んでいただけたと思います。



高円寺フェス2017

2017年10月28日、29日に東京都で開催された、高円寺フェス2017に「トンボ学君」と「トンボ衣乃ちゃん」が初参加しました。高円寺フェスとは街のPR活動のひとつとして、イベントブースや出店など街全体で盛り上げる高円寺の大文化祭です。その中で、今回「ゆるキャラまつり」に参加し、全国約40種のご当地キャラと一緒にPRを行いました。会場ではブースを設けての展示や物品販売、アピールタイムや高円寺フェスの各イベント会場への出張などでキャラ自体やトンボの企業PRを行いました。高円寺フェス全体としては例年約18万人の来場があり、「ゆるキャラまつり」も1万4千人の来場があります。初日は11時スタートとともに家族連れ、学生をはじめ様々な人が一斉に来場しました。多くの来場者が携帯で撮影を行い、若い人を中心にSNSへアップしていただきました。その拡散、PR効果は私たちの予想を超え、改めてSNSの力を感じました。社外に飛び出し来場者や他のキャラクターと触れ合う素晴らしい機会となりました。



LINE STOREでトンボ学くん&衣乃ちゃんのスタンプが登場



工場見学・インターンシップ・ チャレンジワーク等による地域貢献

当社では工場見学の要望へ積極的にお応えし、地域の皆様や学校関係者様の理解を深めていただけるように努めています。また、各事業所でインターンシップやチャレンジワークの学生・生徒を受け入れ、労働についての学びの場を提供しています。

工場見学・インターンシップ・チャレンジワーク受け入れ人数

(2017年度)

	岡山本社	玉野本社工場	岡山工場	美咲工場	東京本社	大阪支店	福岡支店	合計
工場見学	—	1,493	12	130	—	—	—	1,635
インターンシップ(高校生・大学生・社会人)	59	8	3	7	2	27	2	108
チャレンジワーク(中学生)	0	4	0	3	20	0	7	34

工場見学・インターンシップによる地域貢献

■玉野本社工場

地元玉野市の小学生に社会科授業の一環として、地元で開催される産業ツアーの会場として工場見学の機会を提供しています。アメリカのアーカンソー大学も7年連続で日本の制服文化を勉強に来場頂いています。また、高校、大学生のインターンシップも受け入れ、将来の職業選択の参考になるよう応援をしています。参加者からは「仕事の大変さ、社会のルールや挨拶の大切さが分かった」などの感想を頂いています。



インターンシップ

■大阪支店

大阪支店では、毎年2回大学生を対象にインターンシップの受け入れを実施しています。昨年度は28名の大学生にご参加いただきました。内容はセールスと同行する営業活動や、グループに分けて制服コーディネイトからプレゼンテーション演習を行い、より実践に近い制服の提案業務についても体験してもらっています。学生の皆さんは当然初めての経験で、自分の将来をしっかりと見つめるいい機会となり、非常に興味を持って積極的に取り組んでもらっています。



中学生チャレンジワーク

■玉野本社工場

玉野本社工場では、地元の中学2年生を対象にチャレンジワーク(職業体験)の受け入れを行っています。今年も4名の受入を行いました。内容は生産現場で裁断地の型入れやピックアップ作業、取扱説明書などの付属品セットなど地道な細かい業務を体験してもらっています。学校様からも、「職業観や勤労観を育てる一助となり、今後、自己の生き方を考え課題に取り組むことができるよう学校生活をサポートします」との感想を頂いております。



日本唯一のユニフォーム研究開発センター

『最良のユニフォームメーカーを目指す』を旗印に、トンボ創業120周年記念事業として、当社創業の地であり、現在の玉野本社工場敷地内に設立したのが、ユニフォーム研究開発センターです。1階にはパターン作成と、仕様を確定する製造の司令塔ともいえる品質技術部が入り、2階の広大なスペースには、ユニフォームミュージアムと、新作や近年ご採用いただいた制服をお披露目するショールームがあります。特にミュージアムは、飛鳥時代から始まる日本の学制を彩った、その時々々の学生のスタイルを再現しており、日本のみならず世界から見学者が訪れています。また、同敷地内には八正館(トンボ歴史資料館)があり、トンボの140年にわたる歴史を、創業時からの製品や工具・設備、ポスターなどの展示物で紹介しています。



※一般公開はしていません。

東日本大震災復興支援トンボスマイルキャンペーン

学校制服・体育着の売上の一部を、東日本大震災の被災3県(福島県・岩手県・宮城県)の子ども支援基金などに寄付する「トンボスマイルキャンペーン」事業も今期で7回目。今期も近藤社長が福島民報社・岩手日報社・河北新報社の3社へ伺い、義捐金の贈呈を行いました。「これだけ長く支援を続ける企業は他にない」「7年連続の活動に頭が下がります」などのお言葉を頂きました。子どもたちが希望を持って勉強に励み、社会に羽ばたいていけるよう、今後も寄贈を継続していく予定です。



岩手日報社 岩手日報2018年6月6日付

岡山県社会福祉協議会へ商品寄贈

岡山県社会福祉協議会を通して、各市の社会福祉協議会が行っている「生活用品・衣料支援の取り組み」に体育着シャツ・パンツ、インナーシャツ、靴下等、約100点を寄贈させて頂きました。何度も社会福祉協議会に足を運び、子どもの貧困の現状と社会福祉協議会の取り組みなどを教えて頂き、今回の支援をさせて頂くことになりました。

各事業所での活動 各事業所で行っている活動を紹介

UNOICHI

玉野本社工場ブランディング活動の取組みとして、地元のマルシェイベント「UNOICHI」へ出店しました。夏本番の2017年7月、宇野港から出航して瀬戸内海をクルーズする船の上で、「トンボエコ工房」と題し、玉野商業高校(現:玉野商工高校)の生徒さんとコラボして、ポケットティッシュケース作りのワークショップを開催。総勢50名のお客様が制作に挑戦してくださり、暑中悪戦苦闘しながらも、家族や友人と楽しい時間を過ごしていただきました。



献血への参加協力

玉野本社工場では毎年6月と12月に、定期的に献血バスが来場し昼休みを利用して大勢の社員が毎回参加しています。男性は17歳から、女性は18歳から献血が可能になり、6月の献血には高校を卒業したばかりの新入社員も積極的に参加し、玉野本社工場全体にも確実に浸透してきました。献血された血液の80%以上は、怪我だけでなく、がんや白血病、再生不良性貧血などの病気と闘う人の為にも使われています。血液は、科学が目覚ましく進歩している現在でも人工的に造れません。今後も、会社をあげて、命を繋ぐ献血を推進して参ります。



キッズビジネスタウンたまの

2017年11月に玉野商業高校(現:玉野商工高校)で「キッズビジネスタウンたまの」が開催され、トンボも参加しました。制服の残布を使用したマイ箸袋作りや環境教室を行い、社会の仕組みの勉強とともに子どもたちにもものづくりの楽しさとトンボの環境活動を知ってもらう良い機会となりました。

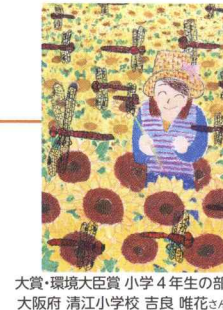


ホンデリング ~本で広がる支援の輪~

ホンデリングとは、不要になった書籍を寄付し、その売却代金を犯罪被害者の方々の支援活動に役立てる活動です。今期より岡山本社の談話室に収集箱を設置。社員の協力もあり、3回の寄付を行うことができました。今後も引き続き、活動を継続して参ります。

就労応援団

当社では、岡山県教育委員会に協力し「岡山の就労応援団」に登録しています。「特別支援学校」の生徒さんの働く力を育成し、職業教育・就労支援の充実を図るため、実習の受け入れ、採用も行っています。



大賞・環境大臣賞 小学4年生の部
大阪府 清江小学校 吉良 唯花さん

VICTORYスポーツ教室

VICTORYスポーツ教室は全国の小学校、中学校、高校に「憧れのアスリート」が直接赴き、講師となって講演と実技指導を無料で行う画期的なプログラムです。



スポーツを通して心の教育を

2001年からスタートしたVICTORYスポーツ教室は、実施校から毎年大きな反響をいただいています。

<http://www.tombow.gr.jp>

2017年実施校

福岡県	久留米市立南筑高校	柔道	杉本 美香氏
神奈川県	湘南学園	サッカー	北澤 豪氏
福島県	県立いわき海星高校	バドミントン	小椋 久美子氏
新潟県	北越高校	サッカー	福田 正博氏
岡山県	玉野市立玉野商業高校	バレーボール	大林 素子氏
埼玉県	春日部市立谷原中学校	陸上	有森 裕子氏
北海道	札幌日本大学高校	サッカー	北澤 豪氏



北澤 豪氏

小椋 久美子氏

大林 素子氏

主催：朝日新聞社・朝日学生新聞社・日刊スポーツ新聞社

後援：スポーツ庁・全国市町村教育委員会連合会・(公財)日本中学校体育連盟・(公財)全国高等学校体育連盟

VICTORYスポーツ教室講師陣 (順不同・敬称略)

松木 安太郎・城 彰二・宮澤 ミシェル・永島 昭浩・名良橋 晃・北澤 豪・福田 正博(サッカー) 松山 進次郎(野球)
杉本 美香(柔道) 大林 素子・中垣内 祐一・益子 直美・大山 加奈(バレーボール) 伊東 浩司・有森 裕子・朝原 宣治(陸上)
沢松 奈生子・神尾 米・鈴木 貴男(テニス) 陣内 貴美子・小椋 久美子(バドミントン) 原田 裕花(バスケットボール)
宮崎 大輔(ハンドボール) 大畑 大介(ラグビー) 宇津木 妙子・馬淵 智子(ソフトボール) 田中 雅美・星 奈津美(水泳)

スポーツ教室実施校報告

■静岡県 飛龍高校

2018年4月24日に静岡県の学校法人沼津学園飛龍高校にてサッカーの北澤豪氏を迎えスポーツ教室を開催いたしました。先生、生徒さん約1,000名への講演とサッカー部への実技指導を通して「一瞬のチャンスをもものにするために自分を理解して目標をつくる」ことの大切さを指導していただきました。サッカーはもとよりメディア等でも活躍されている経験豊富な北澤氏のお話を生徒さんたちも熱心に聞いており、質疑応答も非常に盛り上がりしました。



スポーツ大会等の協賛支援

トンボでは、全国の小学校、中学校、高校を対象とした、各種スポーツ大会の開催、協賛を行い、生徒・児童のスポーツを通じた心と体の育成や交流を支援しています。



大賞・環境大臣賞 小学5年生の部
福岡県 南小学校 杉山 寛明さん

岡山シーガルズバレーボール教室

■南九州トンボ(株)

2017年9月2日、鹿児島実業高校の生徒さんの他、近隣の中学生を含む総勢100名が、岡山シーガルズの丸山選手、大升選手、神田コーチより3時間の熱心な指導を受けました。岡山シーガルズの選手のより「積極的な生徒ばかりで非常にやりがいを感じた一日でした」。先生からは「現役選手とプレーする貴重な体験ができた。生徒の意識を変えるきっかけにしたい」と感謝の言葉を頂きました。今回参加した生徒さんの中から2020年東京オリンピック出場選手が出てくれれば嬉しいかぎりです。



7人制ラグビーフットボール大会

■東京本社

東京本社では、全国高等学校7人制ラグビーフットボール大会千葉県予選の大会協賛を行っています。2019年には日本でラグビーW杯が開催されます。また7人制ラグビー(セブンズ)は五輪正式競技でもあり、今一番注目度の高いスポーツ競技です。セブンズは、選手の動きや試合展開が非常にスピーディーで、常に手に汗握る展開で観戦にも熱の入る競技です。セブンズにご協力させて頂く事で、トンボもラグビーのように「紳士的」で「勢いのある」企業になっていきたいと思っております。



千葉県ラグビーフットボール協会より引用

小学生ソフトボール大会開催

■福岡支店

福岡支店では小学生ソフトボールの普及と振興を図ると共に、福岡県内に所属する各地区リーグのNo.1を決定する「トンボ杯オールスタードリームマッチ福岡」を、2016年より開催しています。大会は、各地区の6年生を中心に選抜された選手が、優勝を目指し熱戦を繰り広げます。各チームの大会に懸ける想いも強く、夢かなわず敗退した選手の涙も多く見られます。今後も大会開催の支援を行うとともに、他競技での大会開催に向け積極的に取り組んで参ります。



公益財団法人 はっしょうかい 八正会

公益財団法人八正会は、岡山県内の高校生を対象に、奨学金を給付している育英事業団体です。受給者は卒業後も奨学金を返済する必要はありません。

八正会の歴史と意味

八正会は、初代社長三宅保正が、「社会に少しでも恩返しをしたい」との思いから、1956年に私財を投じて始めた育英事業で、1960年に財団法人設立認可を受けました。岡山県内に在住し、県下の高校に進学する生徒に奨学援助を行い、人材育成を支援しています。設立から現在までに、600名以上の奨学生を送り出しています。

八正会という名称は、八つの正しい道(正道、正志、正語、正業、正命、正精神、正念、正定)という仏法の八正道の教えにちなんだものです。なお、公益財団法人八正会は、宗教とは関係ありません。

八正会の活動

八正会では、年4回の研修会を行い、人間性の向上と奨学生同士の親睦を深めています。特に夏期研修会は、2泊3日の日程で、学年や学校を超えて絆を深め合うことができ、「不安だったけど、参加してよかった」「みんなと仲良くなれてよかった」などの感想が寄せられます。また、入会式や歓送会の際に、皆が大きな思い出として語るのもこの研修です。卒業後も、「八正会でしか経験できない貴重な時間」として、深く記憶に残る行事となっています。

4月 入会式

現会員や役員、OB・OGが集まって新会員を迎えます。



入会式

11月 秋期研修会

講演会や工場見学、梨狩りなどの野外活動を行います。



絵画教室

8月 夏期研修会

2泊3日の宿泊研修。ディベートやレクリエーションなどを通じて交流を深めます。



ディベート

1月 歓送会

卒業生を送り出します。



皆勤者の表彰

機関誌「やまびこ」の発行

会員の交流の場として、また会員一人ひとりが自己を省みる場として、会員・役員・OB・OGの執筆による機関誌「やまびこ」を年2回発行しています。

<http://www.hasshoukai.or.jp>

公益財団法人八正会

検索



女性活躍推進活動 女性が働きやすい職場環境を目指して

大賞・環境大臣賞 小学6年生の部
富山県 南条小学校 寺野 さとみさん

女性の働き方改革

トンボでは、女性が働きやすい職場環境をめざし、様々な活動に取り組んでいます。2017年9月に始まったWill Withプロジェクトは、各事業所の女性の代表が集まり現状を分析しながら、何ができるのかを考え4つの分科会で活動を開始。社内規定をまとめたガイドライン作成、全事業所のヒアリング、研修の企画などに取り組んでいます。また、5期目を迎えたウーマンズプロジェクトでは女性目線を大切に商品開発や働く環境改善案の提言に取り組みました。さらに、2018年5月に社員の声を聴くため、Will Withプロジェクトとウーマンズプロジェクトの合同による全社員へのアンケート調査を実施しました。今後も、男女を問わずみんなが働きやすい環境を目指して参ります。



育児産休支援

前年本社で開催した第1回に続いて、2017年6月岡山工場で第2回トンボママスタを開催。育休復帰者、育休中、産休前の社員7名が、仕事や育児の不安、困りごと、保育園の状況、制度変更等について話し合いました。出産・育児に対する社内の理解や制度により、現在、結婚・出産後の復帰は100%に近くなっています。今後も、女性が働きやすい環境を目指し、改善・充実を図って参ります。



育児短時間勤務

トンボ社内には、産休、育休、育児時短勤務の制度を使い、活躍する女性が増えてきました。いずれの職種にしても、時短の制約がある中で働くことは周囲の理解と協力が不可欠。本人はもちろん、支える社員も仕事のやり方を見直し、ムダを省き、効率的に仕事を行い、双方の負荷を最小限に抑えるように努力しています。また、心のケアを考え、制度取得者と支える社員の個人面談、コミュニケーションを高める為両者が何でも言い合える場の定期的な開催など、風通しの良い職場作りを心掛けています。

託児施設

子育て世代の社員が安心して働ける環境づくりのために、玉野本社工場には託児施設を設けています。また、岡山本社では近隣保育所と契約し、仕事と育児の両立を支援しています。



	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
託児所利用者数(人)	25	17	17	19	12

※1年間に利用した子どもの数(一時預り含む)

育児・介護休業制度

1年間(最長1年6か月)の育児休業制度ならびに6か月間の介護休業制度を設け、仕事との両立を支援しています。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
育児休業取得者(人)	12	16	11	9	15
介護休業取得者(人)	0	0	0	0	0

社員の声



Will Withプロジェクトに参加して 岡山本社 立花由佳

各ディビジョンから女性社員が集まり、「働きやすい」「働きがいのある」環境づくりについて考えています。活発な議論が交わされる中で「ワークライフバランスの制度一覧」の作成や「モチベーションアップ研修」の企画などのアイデアが生まれました。ひとつひとつが形になっていくことでやりがいを感じるとともに、メンバーの集結によって生まれるパワーを実感しています。今後も一丸となり活動していきたいと思っています。

健全な労使関係 社員の労働条件や労働環境などの交渉・協議

組合活動

当社と労働組合「トンボユニオン」とは健全な労使関係にあり、社員の労働条件や労働環境などについて交渉・協議を行っています。



BCP対策

BCP対策と防火・防災訓練

トンボではBCP(事業継続計画)として災害などのリスクを軽減するために災害時に社員の安否確認ができるシステムの構築や非常食・災害復旧用品の備蓄をしています。また、事業継続の妨げとなるボトルネック解消策として、生産拠点の分散や多能化にも取り組んでいます。各事業所では防火・防災対策として毎年訓練を実施。防災訓練では、災害備品の搬出、避難人員の確認、消防署や近隣病院の状況確認、二次災害防止対策、ライフラインの確認、衛生電話での各事業所との連絡確認などを実施しています。

社員満足サポート 社員が満足して働ける環境を目指して

トンボ版・働き方改革

トンボでは正社員だけにとどまらず、再雇用・パート・実習生・期間アルバイト等様々な雇用形態、年齢層の方が活躍しています。各事業所では残業削減プロジェクトを開催し、年間時間外目標を部門ごとに設定し、管理者用にシステムを導入しながら、日々の管理を行っています。また、繁忙期には過重労働を防ぐため、時差出勤や交代勤務を実施し、休日出勤の振替消化率を毎月提出し役員の確認を受けています。今期は繁忙期の残業が増加したため、来期以降にプロジェクトを組んで課題解決の対策を検討します。

キャリアデザイン研修

50代後半に定年後もイキイキとやりがいを持って働くために、キャリアデザイン研修を開催しています。年齢と共に立場や役割が変わっていく事を認識し、自分の強みや力を活かせる専門能力の開発計画と実行具体策を考えてもらい、人生の方向性を考えます。

障がい者雇用

障がいを持った方がいきいきと働ける職場づくりを目指します。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
障がい者雇用率(%)	2.29	2.49	2.59	2.06	2.09

マイスターインストラクター制度

トンボの「現代の名工」と呼ばれる卓越した技能者に「マイスター」、「インストラクター」の称号を与え、認定を受けたベテラン社員から若手社員への技術継承を推進しています。現在は、6名の社員を認定しています。



60歳到達者説明会

60歳の定年を迎えるに当たって、雇用保険の手続き・年金の請求・退職金についてなど、さまざまな手続きの説明会を実施しています。定年の6か月前に実施することで、定年を迎える社員の不安の解消やライフプラン作成の一助となっています。

再雇用制度

60歳定年後も引き続き勤務する意志のある人を対象とした再雇用制度を設けています。

		2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
定年到達者(人)	男	6	4	9	7	9
	女	13	11	7	11	7
再雇用者(人)	男	4	4	7	6	8
	女	11	9	7	8	7

新入社員のサポート体制



生産物流部門では、新入社員フォローの一環として、配属1ヶ月後、半年後、また2年目、3年目の各社員に対し、ヒアリングや交換日記を行い、研修と加えて成長の一助としています。また、営業部門では先輩社員がパートナーとなり、定期面談を行っています。新入社員の話を聞き、疑問や悩みを共有することで、少しでも緊張や不安を軽減でき、先輩社員にも後輩指導・育成力の向上に役立っています。

社員の努力評価、表彰制度

ブランディング活動、コストリダクション活動、小集団活動、改善提案活動など、社内で社員がさまざまな活動に取り組んでいます。それぞれの活動に対して、1年間の成果を評価し、努力した社員やチーム・組織を表彰しています。



社内報

当社の社内報は、現在1年間に3回のペースで発行しています。内容は、社長の言葉、各事業所の情報、社員の結婚や出産の情報、趣味のコーナーなどです。社内報は、会社と社員を繋ぐ情報伝達手段の一つとして大事な役割を担っており、これからも続けていきたいトンボの文化の一つです。



短期社内留学

社員が担当業務に関連する他部署の仕事を一週間程度体験する事により、業務知識や技術を幅広く学び、スムーズな業務連携ができるようになります。この制度を通じ、社員・部門間の相互的な連携を深め、成果を発揮できるよう今後も取り組んでいきます。

マナー教育(心の手帳勉強会)

「心の手帳」は、トンボの社員が気持ちのよい職場生活を送るため、またお客様に満足していただける対応の手引きとして、1978年より発行しています。社員の要望や意見をふんだんに取り入れ、さまざまな場面で活用できるものになるよう改訂を続けています。また「心の手帳」を活用した勉強会を開催し、社員一人ひとりがレベルアップできるよう取り組んでいます。



社員の声



トンボママスタに参加して

玉野本社工場 濱野 京子

最初「ママスタ」と言われピンと来なかったですが参加してみると、自分の子どもと歳の近い子どものお母さんの話を聞いたり、会社に「こうして欲しい」と要望を伝えたりできました。4歳と2歳の子どもも託児所でお世話になりましたし、会社側も子育て中のママたちが少しでも働きやすくなるよう配慮してくれているのだなと思い、仕事も育児も頑張らねばと改めて感じました。

スポーツ活動

野球サークル

物流サービス部では野球チーム「LOGISTICS」は昨年5月に誕生し、現在男性18名、女性10名が所属しています。未経験者から経験者まで皆で楽しく毎月1回練習や試合を行っています。普段仕事では見られない姿や表情を知る事ができ、今までより距離が縮まる良い機会となっています。各事業所に野球サークルがあり社員の親睦を深めています。



バスケットボールサークル

毎年、生産・物流の新入社員と若手を中心に集まり、楽しくバスケットボールをしています。サークルでは、年齢関係なくチームを作り、試合形式で活動しています。大会出場を目指すのではなく、交流を目的にしており、社員同士の良い交流の場となっています。



社員の声



物流野球サークルに参加して

物流サービス部 木村 有佐

今期より物流サービス部で野球部を結成しました。若者達と心だけはいつまでも若者で構成されています。未経験者の方も多くいますが、みんなで楽しく活動しています。早朝野球では惜しくも初戦敗退でしたが、他チームとの交流試合も重ね物流としての職場のチームワークも強めています。

社員の健康づくり

労働安全衛生対策

各事業所単位で安全衛生委員会を設け、営業系・生産系に分かれた全社確認会を行っています。一例をあげると、玉野本社工場では5S安全衛生委員会を設け、毎月の職場巡回を実施。危険箇所の抽出、整理整頓、環境測定などを行い、職場の環境整備に努めています。また、実残業をチェックし、繁忙期の過重労働予防として部分交代制も導入しています。

こころの健康相談室

社員と家族のこころの健康維持を目指し、社外にこころの健康相談室を設けています。2017年7月～8月に、こころの健康相談室から講師をお招きし、「ストレスチェックの活かし方とセルフチェック」と題して講演会を各支社支店で実施しました。2017年7月から2018年6月までの延べ相談件数は、電話が9件、メールが36件、ウェブが19件、来所が9件、カウンセリングが30件でした。

社員の健康管理、ストレスチェック

社員が心身ともに健康な状態で働き、能力を発揮できるよう、年に1回の健康診断、健診の2次検査のフォロー、協会けんぽの保健師による特定保健指導、産業医による長時間労働のメンタルヘルスチェックなどを行っています。

トンボスクール

トンボスクール体系

社内研修		外部派遣研修
① 専門職能資格者研修 ・評価者研修 ・新任役職者研修 ・コーチングスキル研修	② 階層別研修 ・新入社員研修、新入社員フォロー研修 ・チームワークトレーニング研修 ・2年目研修 ・技能職研修 初級(3年目) ・キャリア開発研修(3年目) ・4年目研修 ・OJTリーダー育成研修(5年目)	① 幹部研修 ・チームリーダースクール ・中堅リーダー革新セミナー ・女性リーダースクール
③ 専門別研修 ・営業基礎力実践強化研修 ・バイヤーズ研修	④ 一般研修 ・キャリアデザイン研修 ・メンタルヘルスセミナー ・セクシュアルハラスメント研修 ・待遇勉強会	② 一般研修 ・修養団みがか講習会 ・QCステップアップ研修
⑤ 相互交流研修 ・短期社内留学研修	⑥ グループ会社研修 ・セールス研修 ・ベーシックスクール(1～2年目)	③ 公開講座(階層別社員選択) ・コミュニケーション ・ビジネスマインド ・ビジネススキル ・リスク管理 ・マネジメント ・部下育成 ・業務改善 など



新入社員研修



バイヤーズ研修



3年目キャリア開発研修

通信教育支援

自己啓発と人事制度の両面から、社員の通信教育受講を推奨しています。通信教育講座は、事前に会社推薦や部門推薦コースを設定することで受講しやすいように工夫し、期間中はフォローカードと上司からの声かけで、全員が修了を目指せるように支援しています。また受講期間内に修了した場合には、受講料の援助金を給付。毎年多くの社員が活用しています。今期は、271名が受講し、修了者229名、修了率84.5%という状況でした。

資格取得支援

社員一人ひとりのスキルアップを目的に、資格取得を応援しています。会社が奨励する資格取得者には、お祝い金を支給しています。

取得資格名	2017年取得者数	総取得者数
繊維製品品質管理士(TES)	0	31
技能士(縫製)	5	61
技能士(パターン)	0	14
技能士(機械整備)	0	4
色彩能力検定	2	3
販売士	1	16
日商簿記検定	0	3
秘書技能検定	1	2
衛生管理者	0	30
危険物取扱者	0	4
電気工事士	0	1
e c o検定	1	20
愛玩動物飼育管理士	0	2



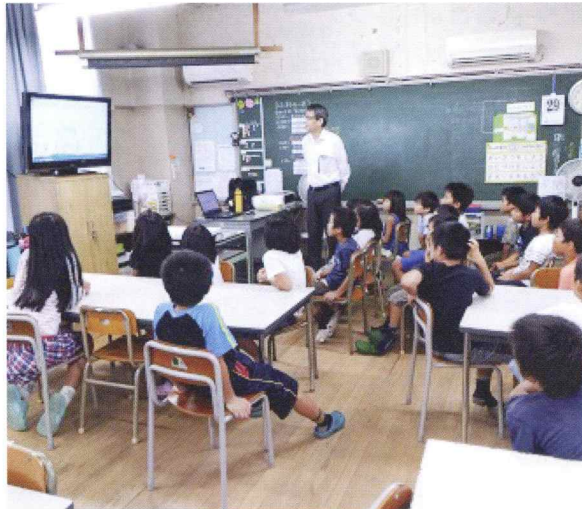
大賞・環境大臣賞 高校生の部
兵庫県 小野高校 大崎 珠希さん

シーズンテーマ:「チャレンジイノベーション 変革への挑戦」

今期も引き続き「業態にとらわれず、常に革新し、挑戦していく」ことを基本に、全社18部門が活動テーマを設定し、活動を実践しました。社員一丸となり、さまざまな活動に取り組んだ結果、下記4事業所に対し、ブランディング委員会の推薦、取締役会での検討を経て社内表彰を行いました。

最優秀賞 玉野本社工場

『地域を元気に、社員を元気に』



学童保育の環境授業

玉野本社工場では今期、新たなブランディング活動として、残布利用の新アイテム・ポケットティッシュケースの開発、地元の玉野商業高校(現:玉野商工高校)の課外授業での作成勉強会実施、そして同校とコラボして玉野地域のイベント「UNOICHI」への出店に取り組みました。他にも、学童保育でマイ箸袋作成と環境授業の実施、ペルマークを収集し地域学校へ贈呈、ブランディング便りの発行等、積極的にブランディング活動を行い地域とのコミュニケーションを深めてきました。今後も地域を元気にするブランディング活動を社員一丸となってい、地域も社員も元気になるブランディングを目指します。



新アイテム作成勉強会

優秀賞 総務部・人事部

『社員満足度NO.1』

総務部・人事部では、各部門のブランディング委員のご協力の下、『心の手帳勉強会』を開催しました。来客対応の基本や宛名の書き方、SNSについて等、各部門が希望する内容で実施し、参加者からは「勉強になった」と沢山の声をもらいました。また、採用活動においては学生にトンボの魅力を伝えられるよう、採用冊子を一新しツールも充実させました。今後も総務部・人事部ならではのトンボらしさを大切にブランディング活動をしていきます。



心の手帳勉強会



採用冊子

努力賞 美咲工場

『きらりと光る輪を広げよう』

美咲工場では、地域との繋がり・お客様との繋がりを大切に活動に取り組んでいます。近隣保育園のイベントボランティアや、小学生の夏休み宿題お助け隊など継続してお手伝いさせて頂いています。また、工場見学でも多くのお客様にご来訪頂き、トンボのスポーツウエアの魅力を発信するべく社員一丸となったブランディング活動を心がけています。



夕涼み会

優秀賞 大阪支店

『トンボ大量発生!』

大阪支店では、より多くのお客様に「トンボ」を届けたい、という想いから体育着オリジナルブランド「ビクトリー」の冠スポーツ大会開催を強化しています。前期はバスケットボール・バレーボール・野球の3競技で56校から大勢の先生と生徒の皆様にご参加頂き、大変盛り上がりしました。今期は新たにソフトテニスの冠大会も予定しています。今後もより多くのお客様に「トンボ」の心地よさを感じて頂けますよう、お客様に寄り添いながら活動に取り組んで参ります。



ビクトリーカップ バスケットボール・野球



1876年 (明治 9年)	●創業者三宅熊五郎により創業
1908年 (明治 41年)	●初代社長三宅保正が事業を継承
1910年 (明治 43年)	●「キラクたび」を主要商標として登録
1924年 (大正 13年)	●法人設立、帝国足袋株式会社と称す
1930年 (昭和 5年)	●学生服の生産・発売を開始。現在のトンボ学生服の第一歩である。
1944年 (昭和 19年)	●帝国興業株式会社に社名変更
1945年 (昭和 20年)	●学生服・足袋再生産開始
1947年 (昭和 22年)	●紡績部門を設ける
1955年 (昭和 30年)	●学生服・作業服・トレーニングパンツJIS規格表示許可工場となる ●合繊製品生産開始
1965年 (昭和 40年)	●丸洗い(ハイウェイ)学生服誕生
1971年 (昭和 46年)	●スポーツウエア専門桶原工場(現・美咲工場)建設
1974年 (昭和 49年)	●岡山工場 新築移転 ●テイクオフ株式会社に社名変更 ●本社事務所岡山に移転
1976年 (昭和 51年)	●創業100周年 ●S.I.(スクールアイデンティティ)提唱
1978年 (昭和 53年)	●オンラインシステム導入
1979年 (昭和 54年)	●本社事務所 岡山駅前に移転
1982年 (昭和 57年)	●玉野流通センター完成
1983年 (昭和 58年)	●業界初のウール50%ウォッシュアップル学生服誕生
1984年 (昭和 59年)	●玉野本社工場コンピュータ・グレーディング・マーキングシステム導入
1986年 (昭和 61年)	●創業110周年記念事業として「IWE LOVE トンボ」絵画コンクールを始める
1989年 (平成元年)	●デザイナー・山本寛彦氏と提携、「KANSAI SCHOOL FORM」販売開始
1990年 (平成 2年)	●デザイナー・桂由美氏と提携し、オフィスユニフォーム販売開始
1993年 (平成 5年)	●玉野本社工場内にカッティングセンター設立と自動裁断システムの導入
1994年 (平成 6年)	●デザイナー・中野裕道氏と提携し「ヒロミチナカノスクール」販売開始
1996年 (平成 8年)	●創業120周年記念事業としてユニフォーム研究開発センター設立
1997年 (平成 9年)	●介護リハビリウエア「KIRAKU」販売開始
1999年 (平成 11年)	●ISO9002品質マネジメントシステム(QMS)認証取得
2001年 (平成 13年)	●ISO14001環境マネジメントシステム(EMS)認証取得 ●「コムサ・デ・モード・スクールレーベル」販売開始
2002年 (平成 14年)	●環境報告書発行開始 ●ISO9001品質マネジメントシステム(QMS)認証取得 ●本社事務所 岡山市厚生町に移転
2003年 (平成 15年)	●「オーリーブ・デ・オーリーブ・スクール」発売開始
2006年 (平成 18年)	●ISO14001環境マネジメントシステム(EMS)認証取得(全13事業所) ●創業130周年 株式会社トンボに社名変更
2007年 (平成 19年)	●トンボCSRレポート発行開始
2008年 (平成 20年)	●「YONEX」と業務提携 ●玉野本社工場・物流センター完成
2009年 (平成 21年)	●メディカルウエア(白衣)販売開始
2010年 (平成 22年)	●11月29日 いい服の日 制定
2011年 (平成 23年)	●創業135周年 真庭市とバイオマス推進協定締結
2012年 (平成 24年)	●美咲工場の年間排出CO2をカーボンオフセット ●美咲工場カッティングセンター増築
2013年 (平成 25年)	●株式会社トンボ倉吉工場設立
2014年 (平成 26年)	●シニア介護用品ブランド「With」立ち上げ ●トンボ大阪ビル完成
2015年 (平成 27年)	●英国大使館にて「トンボ140thアニバーサリータータン」を発表 ●介護ブランド「栗原はるみ」発売開始 ●「EAST BOY」発売開始
2016年 (平成 28年)	●創業140周年 VICTORYスポーツフォーラム開催
2017年 (平成 29年)	●株式会社トンボ倉吉工場スポーツ館完成

◆トンボ商標

アサヒトンボ商標は、当初、キラクに続く足袋商標の代名詞でした。1930年(昭和5年)、学生服製造を始めるに当たり、市場に早く浸透するため、その知名度を生かしアサヒトンボ商標が用いられましたが、学生服事業が拡大するにしたがって、呼びやすさや親しみやすさからトンボが一本立ちし、「トンボ学生服」となり、今日に至っています。トンボ商標は、創業80年史(1956年刊)には、「日本は世界一蜻蛉(とんぼ)の多い国であります。日本の国を秋津洲(アキツシマ)ともいい、この「秋津」とはトンボのことです。即ちトンボは日本を表徴し、しかも子どもに親しまれる益虫であります。更に「アサヒ」は将に太陽の天に昇るところ即ち日出づる国として、日本の表徴であります。このアサヒにトンボを組み合わせた図柄は、我国の発展を祈る真心より弊社の商標といたしたものであります。」の記述があります。



◆「三宅商店」の創業

三宅熊五郎が「三宅商店」を創業したのは、明治維新からわずか9年後。その後、大正、昭和と、日本は貪欲に西洋文明を取り入れ、手仕事は徐々に機械に取って代わられてきました。「キラク」というブランドと、そこに込められた思い、手仕事を大切に作る風土は、この時代に形づくられました。



トンボ CSR レポートに関するお問い合わせ先

株式会社トンボ 環境・CSR 推進本部

〒700-0985 岡山市北区厚生町二丁目2番9号 E-mail kankyo@tombow.gr.jp
TEL.(086)232-0368 FAX.(086)225-6680

※当レポートに掲載されている内容・写真の無断転載はお断りします。



CSRレポートとは

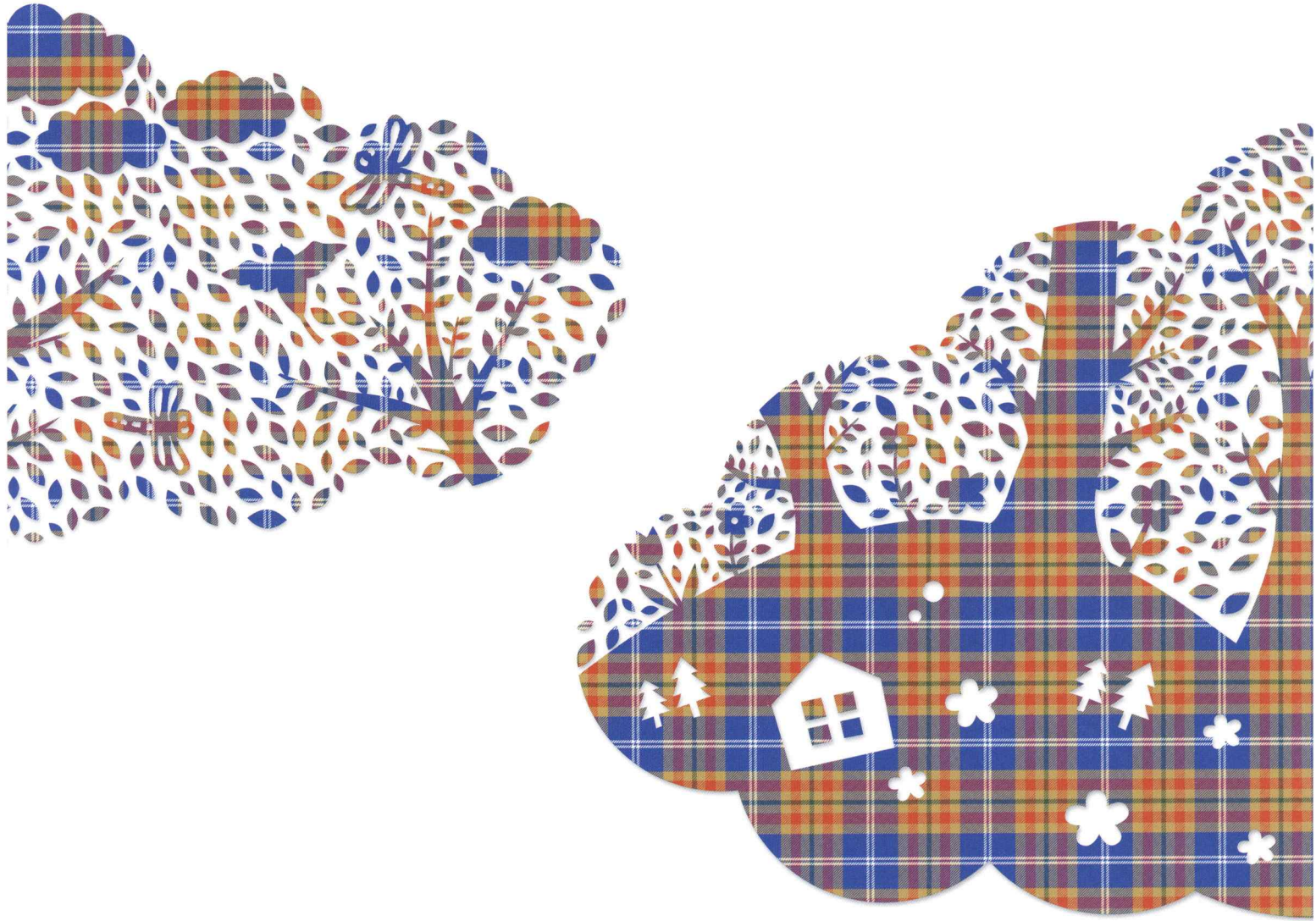
企業が、環境や社会問題などに対して倫理的な責任を果たすべきであるとするCSR(企業の社会的責任)の考えに基づいて行つた、社会的な取り組みをまとめた報告書です。持続可能性報告書とも呼ばれ、企業の環境、労働、安全衛生、社会貢献などに関する情報や、事業活動に伴う環境負荷などを幅広く公開します。近年、さまざまなステークホルダーに対する説明責任を果たすコミュニケーション手段の一つとして環境報告書からCSR報告書へ移行する企業が増加傾向にあります。



第32回「WE LOVE トンボ」絵画コンクール

大賞・文部科学大臣賞 小学1年生の部

三重県 津田学園小学校 薦井 駿介さん



印刷用紙は、適切に管理された森林で生産されたことを示すFSC®森林認証紙を使用。インキは環境負荷の少ない植物油インキを使用しています。

人と自然を大切にしたい価値ある製品づくりを

株式会社 **トンボ**

トンボCSRレポート

検索

